

## 和仏法律学校講義録

寺尾, 亨 / 小河, 滋二郎 / 竹井, 耕一郎 / 鶴見, 守義 / 副  
島, 義一

---

(出版者 / Publisher)

和仏法律学校

(巻 / Volume)

3-13

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

55

(発行年 / Year)

1900-08-15

# 和佛法律學校

## 講義錄

第三部

第三拾號

刑法 總論 (元) (自二一九至三四五) 法學士 鶴見守義

表紙及目次 三頁

憲法 (自一九六至二一七) 法學士 副島義一

行政 法 (自一七〇至一七五) 法學士 竹井耕一郎

國際公法 (自一六一至一九六) 法學士 寺尾亨

監獄學提要 (自七七至九二)

小河滋二郎



# 法學志林

第十號

八月五日發行

每月一回發行  
定價一冊金拾錢郵稅一冊金壹錢十冊前金壹圓郵  
稅不要  
校友生徒校外生ニ限リ  
特價一冊八錢郵稅壹錢十冊前金六拾錢郵稅不要

志林  
婚姻ノ性質、法學士宮本平九郎○獨逸諸國ニ於ケル宗教團體制度ノ變遷並ニ現狀ノ大畧、法學士胡  
島義一○國際法ノ精神、法學士中村進午

假執行ニ關スル諸國ノ法制ヲ論ス、校友木村誠次郎

都落ノ訴訟ニ於ケル町村長ノ代理權、辯護士佐々木茂三郎○被告ノ控訴ニ因リ第一審判決ヲ取消  
シタル不當ノ控訴判決、校友守谷富之助

思ヒ出ラズ、公平概史

○競賣法ニ不備○司法官ト辯護士○朝野法曹ノ懇親會○建碑及祭典

○卒業證書及ヒ修業證書授與式○卒業試験及ヒ學年試驗問題○校友會東京支部會及ヒ發會式○圖  
書閲覧室資金寄附者氏名○校友異動○校友死亡

## 發行所

東京市麴町區富士見町六丁目 司法省指定  
電話番町一七四

## 和佛法律學校

ニ對シ危害ヲ加ヘタル場合モ亦加ヘントシタル場合モ共ニ同一ノ刑ヲ科シ既  
遠ナルト未遂ナルトヲ問ハス又第三百六十二條以下ノ祖父母、父母ノ身體ニ對  
スル子孫ノ爲シタル犯罪ハ未遂ノ場合ハ第百十二條ノ適用ヲ受クルモノナレ  
トモ右犯罪ハ謀殺罪ヲ除ク外大概普通人ノ刑ヨリ重キヲ以テ減等ヲ爲スモ其  
結果ヲ普通人ニ對スル既遂ノ刑ヨリ輕カラサルヘシ

## 第十章 親屬例

親屬例ハ第百十四條及ヒ第百十五條ノ規定スル所ニシテ別ニ説明ヲ用ヒスシ  
テ明瞭ナリ唯茲ニ親屬ト稱スルハ民法ニ所謂親族トハ多少異ナル點アリ即チ  
民法ハ第七百二十五條ニ規定シテ六親等内ノ血族及ヒ配偶者並ニ三親等内ノ  
姻族ト爲セリ而シテ民法上ノ親等ノ計算ハ第七百二十六條ニ親等ハ親族間ノ  
世數ヲ算シテ之ヲ定メ其第二項ニ傍系親ノ親等ヲ定ムルニハ其一人又ハ其配  
偶者ヨリ同始祖ニ遡リ其始祖ヨリ他ノ一人ニ下ルマテノ世數ニ依ルトアリ故  
ニ直系親等ノ計算ハ自己ノ父母ハ一等親ニシテ祖父母ハ二等親高祖父母ハ三

090  
1900  
3-1-13

ニ對シ危害ヲ加ヘタル場合ニ亦加ヘントシタル場合モ共ニ同一ノ刑ヲ科シ既  
 達ナルト未達ナルトヲ問ハス又第三百六十二條以下ノ祖父母、父母ノ身體ニ對  
 スル子孫ノ爲シタル犯罪ハ未達ノ場合ハ第百十二條ノ適用ヲ受クルモノナレ  
 トモ右犯罪ハ謀殺罪ヲ除ク外大概普通人ノ刑ヨリ重キヲ以テ減等ヲ爲スモ其  
 結果ヲ普通人ニ對スル斷違ノ刑ヨリ輕カラサルヘシ

**第十章 親屬例**

親屬例ハ第百十四條及ヒ第百十五條ノ規定スル所ニシテ別ニ説明ヲ用ヒスシ  
 テ明瞭ナリ唯茲ニ親屬ト稱スルハ民法ニ所謂親族トハ多少異ナル點アリ即チ  
 民法ハ第七百二十五條ニ規定シテ六親等内ノ血族及ヒ配偶者並ニ三親等内ノ  
 姻族ト爲セリ而シテ民法上ノ親等ノ計算ハ第七百二十六條ニ親等ハ親族間ノ  
 世數ヲ算シテ之ヲ定メ其第二項ニ傍系親ノ親等ヲ定ムルニハ其一人又ハ其配  
 偶者ヨリ同始祖ニ遡リ其始祖ヨリ他ノ一人ニ下ルマテノ世數ニ依ルトアリ故  
 ニ直系親等ノ計算ハ自己ノ父母ハ一等親ニシテ祖父母ハ二等親高祖父母ハ三

刑法總論 親屬例

第十條  
 日  
 發行所

等親ナリ又自己ノ子ハ一等親ニシテ孫ハ二等親曾孫ハ三等親ナリ次ニ姻族ハ夫ヨリ言ヘハ妻ノ父母ハ一等親兄弟姉妹ハ二等親兄弟姉妹ノ子ハ三等親ニシテ妻ノ祖父母ハ二等親高祖父母ハ三等親ナルヲ以テ妻又ハ夫ノ尊屬親ニ遡リ妻又ハ夫ニ下ル然ラハ從兄弟姉妹間ハ何等親ナリヤ民法ニ依レハ四等親ト爲レリ然ルニ刑法ハ以上所述ノ民法ノ如ク規則的ニ之ヲ定メスモ一之ヲ列舉セリ故ニ二者ノ間甚シキ差異アリ刑法ハ血族親ハ三等親内ニ止マリ其範圍極メテ狭シ唯第十五條ニ於テ少シク其範圍ヲ廣メシノミ

茲ニ疑ノ生スヘキハ刑法ノ親屬例ハ民法實施ト共ニ廢止ト爲リタルモノナリヤ否ヤ是ナリ民法施行法ニ於テハ從來ノ法律規則中ノ廢止スヘキモノハ明カニ其旨ヲ規定シ又刑法中ノ廢止スヘキ條項ヲモ明定シタリ然ルニ刑法ノ親屬例ハ其規定アルコトナシ故ニ此疑ヲ生ス此點ニ付テハ予ハ最初一國ノ法律ニ依リ親屬例ハ二重ニ存在スル能ハサルモノト信シタリシモ今ハ之ヲ穩當ニ非ストノ觀念ヲ抱クニ至レリ蓋シ親族ナルモノハ法律ニ依リテ始メテ定マルモノニシテ彼法律ノ下ニハ親族ハ斯斯ナリ此法律ノ下ニハ親族ハ斯斯ナリト

シテ彼此法律ノ規定ヲ異ニスルハ立法者ノ適宜ニシテ毫モ妨クルコトナシ尤モ道德上及ヒ社交上ヨリ之ヲ論スレハ六等親ハ勿論何等親ト雖モ苟モ血統ニシテ繼續スレハ親族ト謂フコトヲ得ヘク唯法律上之ヲ親族ト謂フコトヲ得ナクニ過キス或論者ハ民法制定ノ當時立法者ノ遺忘シタル結果ナリト云フト擧モ敢テ之ヲ立法者ノ疎漏ニ歸スルヲ得ス立法者ハ刑法ニ於テハ極メテ小範圍ノ親族ヲ認ムルノ必要アルモノト認メテ之ヲ廢止セザリシモノト信ス故ニ今日ト雖モ刑法ノ親屬例ハ依然トシテ有效ナリト謂ハサルヘカラス

刑法上親屬タルヤ否ヤヲ知ルノ必要ハ如何ナル點ニ在ルヤ其重ナルモノヲ擧クレハ第五百十三條ノ犯人藏匿若クハ隱避ノ罪及ヒ第五百十四條ノ罪證據蔽罪ハ犯人ノ親屬ニ係ルトキハ其罪ヲ論セス第三百二十九條ニ脅迫罪ハ被脅迫者又ハ親屬ノ告訴ヲ待テテ其罪ヲ論シ第三百二十八條ニ親屬ニ害ヲ加フヘキ事ヲ脅迫シタルトキモ同シク脅迫罪成立シ第三百五十條ニ猥褻姦淫ノ罪ハ被害者又ハ親屬ノ告訴ヲ待テテ其罪ヲ論シ第三百六十一條及ヒ第三百四十四條ニ略取誘拐罪及ヒ誹毀罪ハ被害者又ハ親屬ノ告訴ヲ以テ其罪ヲ論スルカ如キ

即チ是ナリ又刑事訴訟法上親屬關係ノ有無如何ヲ決スルニハ刑法ニ依ルヘキモノニシテ其必要ノ一二ヲ舉タレハ證人タル資格ノ有無ノ如キ第一二三條被告ノ呼出狀ハ被告人之ヲ受クルロト能ハサルトキハ同屬ノ親屬ニ波スヘシト爲セルカ如キ是ナリ

餘論

以上ヲ以テ現行刑法總則ノ解釋ハ略シテ了シタリ然レトモ刑法學上全ク論議スヘキ點ナキニ非ス是ヲ以テ其順序ハ前後スルノ雖アリト雖モ講學上左ニ二三ノ問題ニ付キ説明スル所アルヘシ  
刑法ノ範圍ハ如何ナル點ニマテ及ホスヘキヤ此問題ニ付テハ刑ノ效力即チ法律改正ノ場合ハ既ニ説明セシ所ナルヲ以テ茲ニハ唯刑法ハ土地ト人トニ付テハ如何ニ之ヲ適用スヘキヤノ點ヲ研究スヘシ此點ニ付キ現行刑法ニハ何等ノ規定ナキモ草案ニハ之ヲ規定ヲ爲セタリ然ラハ實際上斯ル場合ヲ生シタルトキハ如何ニ之ヲ決スヘキカ此點ニ付テハ未ダ管テ實例ナキモ將來ニ於テ極メ

ヲ必要ノ事ニ屬ス而シテ此問題ハ立法上三箇ノ主義ヲ存スルモノナリ  
第一主義 刑法ハ屬地法ナルヲ以テ其國ニ住居スル者ハ何レハ國民タルトヲ問ハス其國ノ刑法ヲ適用セサルヘカラスト云フニ在リ故ニ其國人民ハ勿論外國人ト雖モ之ヲ處罰スルモノナリ然レトモ其國以外ニ於テハ何人カ犯罪ヲ爲スモ其刑法ヲ適用スルコトヲ得ス其理由ハ刑法ハ其之ヲ定メタル國ヲ治ムルノ要具ナルカ故ニ犯罪人カ何國人タルトヲ問ハス苟モ其國內ニ犯罪者アレハ其國ノ治安ヲ害スルヲ以テ總テ之ヲ適用ヲ受ケサルヘカラストノ理論ニ基キタルナリ  
第二主義 刑法ハ屬人法ナルヲ以テ日本國民カ何國ニ居住スルモ本國刑法ニ違背スヘキ行爲アリタルトキハ之ヲ適用ス是レ日本人ハ何國ニ行クモ本國刑法ヲ遵奉スルノ義務アリテ畢竟刑法ハ人ニ關スル法律ナリト云フニ在リ  
第三主義 刑法ハ屬地法ト屬人法ト雙方ノ性質ヲ兼有スルモノナリト云フニ在リ故ニ一面ヨリ言ヘハ屬地法ニシテ他ノ一面ヨリ言ヘハ屬人法ナリ之ヲ以テ帝國版圖内ニ於テハ日本刑法ハ內國人タルト外國人タルトヲ問ハス日本刑

法ヲ適用ス又外國ニ於テ日本刑法ニ違背スル者アルトキハ日本人ニ限り之ヲ適用セサルヘカラス

第二ノ主義ハ何レヲ國モ之ヲ採用シタル所ナシ普通立法例ハ其國內ニ於テ犯罪ヲ爲ス者アレハ其國ノ刑法ヲ以テ罰スルヲ常例トス何トナレハ一國ノ主權ハ其國ヲ治ムルカ爲メ刑法ヲ制定スルモノナレハ苟モ之ヲ罰スル必要アル以上ハ其內國人ト外國人タルト問ハス之ヲ罰セサルヘカラサレハナリ我國ニ於テハ從來外國人ノ犯罪ニ付キ其外國カ日本ニ於テ領事裁判權ヲ有セシヲ以テ我刑法ヲ適用スルコトヲ得サリシモ條約改正ノ實施ト共ニ我刑法ヲ適用スルコトト爲レリ

刑法ハ其國主權ノ支配スヘキ版圖内ニ於テハ總テ其效力ヲ及ホシ其内外國人タルヲ區別スルノ要ナシ是レ即チ屬地主義ナリ此點ニ付テハ二箇ニ區別シテ辨明スヘシ

先ツ第一ニ土地ノ版圖ノ如何ヲ觀察シ第二ニ如何ナル犯罪カ我國ノ版圖内ニ犯サレタルモノナリヤラ說明セント欲ス抑モ一國ノ版圖トハ一國主權ノ及フ

範圍ニシテ單ニ陸地ノミヲ指スニ非ス海上ヲモ包含ス而シテ普通領土ト爲ス外ニ四箇アリ即チ領海船舶占領地領事ニ於テ裁判權ヲ有スル所ノ外國是ナリ以下之ヲ分説スヘシ

(一) 領海 凡ソ海ハ萬國共有ノモノト云フモ可ナリ何トナレハ大海ハ如何ナル國又ハ如何ナル國民ト雖モ支配スルコト能ハサレハナリ換言スレハ各國共通ノ道路ニ異ナラス故ニ日本海又ハ支那海ト云フモ是レ一ノ名稱ニ過キスシテ日本又ハ支那ノ主權ノ及フ範圍ト云フノ意ニ非ス然レトモ刑法ヲ論スルニ當リテハ領海ハ之ヲ例外ト爲ササルヘカラス領海ハ其沿岸國ノ版圖内ト看做スノ必要アリ何トナレハ其國ノ防衛上又ハ刑罰權ノ行使ニ付テ妨ケヲ生スルカ故ナリ而シテ國際公法ニ於テ領海ニ付テハ古昔ハ海岸ヨリ砲丸ヲ達スル所マテラ其國ノ版圖ト爲シタルモ方今ハ干潮ノ時ニ於ケル海水ト陸地トノ接續線ヨリ三海裡ノ區域内ヲ以テ領海即チ其國ノ版圖ト爲スコトト爲レリ

(二) 船舶 船舶カ上述セシ領海中ニ在ル間ハ其國ノ版圖内ニ在ルモノナレハ船舶内ノ犯罪ハ其國內ノ犯罪ト看ルハ勿論ナリ隨テ其船舶内ニ於ケル船員旅

客等ノ犯罪ハ其國法ニ依リテ處罰ス若シ領海以外即チ公海ニ於テ犯罪ヲ爲シタルトキハ如何公海ハ萬國共通ノ道路ト觀ルヘキモノニシテ何國ニモ屬スルモノニ非ス故ニ此場合ハ其船舶ノ船籍地ノ國法ヲ適用セサルヘカラス是レ船舶ハ其所屬國ノ一部分ヲ爲スモノト看做スカ故ナリ是ヲ以テ其船舶内ノ犯罪者カ何國人タルトヲ問フコトナシ向ホ一步進ミテ船舶カ外國ノ領海ト稱スヘキ場所ニ入りタルトキ犯罪生シタル場合ハ如何此場合ハ船舶所屬國ノ法律ト其領海所屬國ノ法律トノ衝突ヲ來スカ故ニ國際公法ニ依リテ判定セサルヘカラス而レテ國際公法ニ依レハ船舶ノ種類ニ因リテ其適用ヲ區別ス即チ軍艦ト商船トヲ區別シ軍艦内ノ犯罪ハ軍艦所屬國ノ法律ヲ適用スヘキモノト爲ス是レ軍艦ハ其本國ノ主權ニ屬スルモノナルヲ以テ如何ナル國如何ナル場所ニ於テモ軍艦所屬國ノ領土ノ一部分ト看做スカ故ナリ然レトモ若シ其軍艦内ノ犯罪カ或外國ニ敵對スヘキ性質ノ犯罪ハ軍艦現在地ノ法律ニ從屬スヘキモノナリ蓋シ此ノ如キ場合ハ刑罰權ヨリ然ラシムルモノニ非スシテ一國ノ正當防衛權ノ結果其犯罪ハ一一檢舉スヘキモノナリ是レ即チ一例外タリ次ニ商船内ノ

犯罪ニ付テハ元來商船ハ一人ニ屬スルモノニシテ其船舶内ノ取締上ニ付テハ船舶所屬國ノ法律ニ從フヘキコトハ言フ埃タサレトモ他國ノ領海内ニ於ケル商船内ノ犯罪處分方法ハ各國ノ法律一定セス英國法ニ依レバ英國ノ領海内ニ於テ犯罪アリタルトキハ總テ英國裁判所之ヲ裁判スヘキモノトシ其例外ヲ認メス之ニ反シテ佛國法ニ於テハ此場合ニ區別ヲ設ケ左ノ三箇ノ場合ニ於テノミ佛國法ヲ適用ス即チ(一)商船乗組員以外ノ者ノ犯罪或ハ乗組員以外ノ者ニ對シテ犯罪ヲ爲シタル場合(二)乗組員ノ犯罪或ハ乗組員ニ對シテ爲シタル犯罪カ佛國ノ港灣内ノ安寧秩序ヲ害スル場合(三)商船内ノ犯罪ニシテ佛國警察權ノ救助ヲ求メタル場合はナリ

(三) 占領地 一國ノ軍隊カ或一國ノ一部ヲ戰爭ニ因リテ占領シタル場所ナリ元來軍隊ハ所屬國ノ主權ノ一部分ナレハ其占領地ハ領土ト同一ナルカ故ニ占領地ニ於ケル犯罪ハ所屬國ノ國法ヲ適用スヘキモノナリ然レトモ占領地ニモ例外アリテ或場合ニハ軍略上局外中立又ハ同盟國ノ一部ヲ占領スルコトアリ此場合ニ於テハ之ヲ區別シ其國ノ承諾上占領シタルトキハ其軍人軍屬ノ犯罪



ノミニ限リ所屬國法ヲ適用シ若シ又其承諾ナクシテ占領シタルトキハ即チ敵國ノ占領ト同一ニ論セザルヘカラス也

(四) 領事裁判 領事裁判トハ他國ニ於テ自國人ノ犯罪ヲ爲シタルトキハ總テ自國ヨリ派遣セラレタル領事カ自國ノ刑法ヲ適用セテ裁判スルノ謂ニシテ我國ノ條約改正前ニ於テ外國人カ我國内ニ犯罪ヲ爲シタルトキハ其犯罪者ノ所屬各國ノ領事カ其國ノ法律ヲ適用處斷シタリ現今我國ハ朝鮮及ヒ支那ニ對シ領事裁判權ヲ有スルカ故ニ右兩國内ニ於テ我國民カ犯罪ヲ爲シタルトキハ我刑法ヲ適用セリ

以上土地ノ版圖ニ付テノ説明ヲ了リタルヲ以テ次ニ如何ナル犯罪カ一國ノ版圖内ニ於テ犯サレタルモノナルヤヲ講セシ此問題ハ犯罪者及ヒ被害者ハ何國人タルトヲ問ハス其犯罪ハ一國內ニ於テ實行サレタルモノナリヤ否ヤヲ觀ルコト最モ必要ナリ抑モ犯罪ノ構成ニシテ單純ナル場合ハ敢テ困難ナキモ或犯罪ノ構成ニハ二三ノ行爲ヲ要スルコトアルヲ以テ此ノ如キ場合ニ於テ此問題ヲ研究スルノ要アリ左ニ之ヲ區別シテ説明スヘシ

第一 犯罪カ一國內ニ於テ犯サレタリト認ムルニハ其犯罪カ終始一國ニ於テ爲サレタルコトヲ要セス故ニ犯罪アリタルトキト雖モ其豫備或ハ結果ハ裁判管轄ヲ定ムルノ標準ト爲ラス要スルニ實行ニ關スル行爲アリタル場合ニハ其著手ト成功トヲ問ハス例ヘハ朝鮮國ニ於テ強盜ノ豫備ヲ爲シ我國ニ其實行ヲ爲シタルトキハ強盜罪ハ我國ニ在リタルモノトス又一犯罪行爲カ二國ニ跨ルコトアリ例ヘハ兩國相接近スル場合ニ一國ノ領土内ヨリ他ノ一國ノ領土内ニ在ル者ヲ銃殺シタル如キ場合ニシテ此場合ハ加害者ト被害者トハ所在國ヲ異ニシ而モ犯罪行爲ハ二國ニ在リタルヲ以テ各自國ノ法律ヲ適用スルノ權限アリ又例ヘハ米國ニ在ル者我國ニ於テ刊行ノ文書ヲ以テ我國ニ在ル者ヲ誹毀シタルトキハ其犯罪ニハ我刑法ヲ適用ス何トナレハ誹毀ノ意思ヲ以テ文書ヲ作成スルハ豫備ノ所爲ニ外ナラスシテ誹毀罪ノ成立シタルハ我國ニ在レハナリ以上ノ如ク種種ナル事實問題ヲ生スヘキモ要スルニ犯罪實行アリ又ハ成功アリタル國ノ法律ヲ適用シ若シ實行又ハ成功カ數國ニ在ルトキハ各國共ニ之ヲ處罰スルノ權アリ故ニ一犯罪ニ付キ既ニ一國カ處罰シタルニ拘ラス尙ホ他ノ

國モ亦刑罰權ヲ行フハ毫モ妨タル所ナキナリ

第二 一犯罪ニ關係シタル所ノ數箇ノ行爲カ二箇以上ノ國ニ跨リタルモ性質上分割シ得ヘキモノナルトキハ各國ハ自國ノ版圖内ニ在リタル行爲ニ付テノミ裁判權ヲ有ス此場合ハ繼續犯ノ如キ場合ニ生スルモノニシテ此ノ如キ行爲ハ分割スルコトヲ得ルモノナレハ各國ハ裁判權ヲ有スルヤ明カナリ然レトモ其國ニ生シタル行爲ノ部分ニ對シテノミ刑罰權ヲ有スルニ過キス尤モ被告人ニ對シテハ甚タ不利益ナリト雖モ是レ自ラ招クノ孽ナレハ已ムヲ得サルナリ

第三 二國以上ニ跨ル犯罪行爲カ時ト場合ニ因リ分割スルコトヲ得ルモ其集合ヲ以テ一犯罪ヲ構成スル場合ニ於テハ其一國ノ法律ヲ以テ總テノ行爲ニセキ處罰スルコトヲ得

刑法ハ既ニ一言セラルク屬地法ナリトセハ如何ナル結果ヲ生スルヤ畢竟スルニ其國ノ版圖内ニ居住スル者ニ限り其國ノ法律ヲ適用スルノ結果ヲ生ス而シテ之ヲ分析スレハ左ノ三箇ト爲ル

(一) 一國ノ版圖内ニ於テハ如何ナル犯罪ニ對シテモ其國ノ法律ノ效力ヲ及ボス

(二) 一國ノ版圖内ニ犯罪アリタルトキハ必ス其國ノ法律ヲ適用シ其犯罪人ノ何國人タルヲ問フコトナシ

(三) 一國版圖内ノ犯罪ハ内國人ト外國人トニ因リテ訴訟手續又ハ刑ノ適用ヲ異ニセス

或一國ノ版圖内ニ於テ爲シタル犯罪ハ如何ナル人タルヲ問ハス總テ其國ノ刑法ヲ適用シテ處罰スルハ一般ノ原則ナリ而シテ此原則ニ對スル例外ハ各國其境ヲ異ニスルモ概シテ左ノ場合ハ之ヲ例外ト認メタリ

第一 君主 君主國ニ於テハ皇帝又ハ王ト稱スル者ハ之ヲ罰セス何故ニ然ルヤ君主ハ主權ヲ有シ其國內ニ於ケル犯罪ニ對シテハ之ヲ處罰スルノ大權ヲ有シ爲テニ其處罰スヘキ刑法ヲ制定ス故ニ其制定ハ自己ニ適用スヘキ爲メニ非スニテ臣民ニ對シ適用スヘキカ爲メナレハ總令君主自身カ刑法ニ觸ルル行爲アルモ之カ適用ヲ受クヘキモノニ非ス然レトモ共和國ノ大統領ハ此限ニ在ラス

第二 外國ノ君主及ヒ公使公使館官吏並ニ其從者元來刑法ハ一國內ヲ統治スル一ノ器具ナルヲ以テ國ト國トノ間ニ關スル場合ニ之ヲ適用スルコトヲ得

ナルナリ蓋シ外國ノ君主ハ國際法上其資格ニ對シ敬意ヲ表スルカ爲メニ所在國ノ裁判權ニ服セシメタル國際慣例ト爲レリ又公使以下ノ者ハ職務ヲ安全ニ執行セシムルカ爲メニ駐在國ノ裁判權ニ服セシメタルナリ  
 公使館ハ不可侵ノ特權ヲ有ス是レ公使ヲシテ職務ノ執行ヲ安全ナラシムル保障ニ出テタルモノナリ若シ此特權ヲ認メサレハ總令公使其者ニノミ駐在國ノ裁判權ニ服セシメサルモ職務執行ノ安全得テ望ムコト能ハス而シテ此特權ハ治外法權ト相近似スルモ全ク同一ノモノニ非ス何トナレハ若シ不可侵權ヲ治外法權トスルトキハ犯罪人カ公使館ニ逃ケ入りタル場合ハ犯罪人引渡條約ニ依ルニ非サレハ其引渡ヲ受クルコト能ハサルヘケレハナリ  
 外國ニ於テ自國民ノ爲シタル犯罪ニ付テハ總テ犯罪者所屬國ノ刑法ヲ以テ之ヲ罰スルコトヲ得ルヤ是レ亦各國ノ刑法一定スル所ナキモ其犯罪ノ種類ニ付テ罰スルト否トヲ區別スルニ由ルニ依リテハ各國ノ法律モ之ヲ罰スルコトト爲レリ是レ畢竟本國ノ公安秩序ヲ害スルノ一層甚シキモノナレハ之

ヲ不問ニ置クヘカラサレハナリ  
 (二) 外國ニ於テ其國家ニ對シ又ハ一箇人ニ對シテ爲シタル犯罪ハ之ヲ細別シテ外國ノ國家ニ對スル犯罪ハ犯罪者ノ本國ニ於テ處罰スルノ必要ナシ何トナレハ此ノ如キ犯罪ハ本國ノ治安ヲ害スルコトナケレハナリ故ニ犯罪者カ本國ニ歸來スルモ之ヲ引渡スコトヲ要セス又一箇人ニ對スル犯罪ハ殺人ノ如キ重大ナル場合ノミ之ヲ罰シ過失殺傷ノ如キ其他輕微ノ犯罪ニ付テハ之ヲ罰セス  
 我新刑法草案ニ於テモ右ノ如キ規定ヲ設ケタリ而シテ茲ニ注意スヘキハ外國ニ在リテ犯罪ヲ爲シタルトキハ其犯罪者ニ對シテハ直チニ訴追スルコトナク唯其犯罪者カ本國ニ歸來シタル時始メテ刑事ノ訴追ヲ爲ス何トナレハ若シ犯罪者歸來セザレハ我國ノ治安ヲ害スルコトナケレハナリ故ニ犯罪者ノ歸國ハ一ノ必要條件ト謂ハサルヲ得ス然ルニ或論者ハ曰ク外國ニ在リテ我國ニ對スル犯罪ヲ爲シタル者ハ歸來ヲ待タスシテ訴追ヲ爲ス何トナレハ歸來ノ如何ヲ問フノ必要ナシト然レトモ其實際ノ手續ハ如何ニスルヤハ明瞭ナラス或ハ此場合ハ關府裁判ヲ爲スノ意ナランカ逃亡犯罪人引渡ノ規則ハ此場合ニ適用ス

ルコト能ハサルナリ  
 我國民カ外國ニ於テ犯罪ヲ爲シタルトキハ我國カ處罰權ヲ有スルニ勿論ナ  
 レトモ其外國モ亦此權ヲ有ス是ニ於テカ法律ノ衝突ヲ生スルニ至ル民事事件  
 ニ付テハ本國法ヲ適用スルヲ原則トスルモ或場合ニハ外國法ヲ適用スルコト  
 アリ例ヘハ物件ノ訴ニ付テハ我國法ヲ適用スルモ契約ニ付テハ其行為地法ヲ  
 適用ス但シ當事者間ニ特約アルトキハ此限ニ在ラス又人事ニ關スル訴ハ概シ  
 テ訴訟當事者ノ本國法ヲ適用ス然ルニ學者感ハ外國ノ法律ヲ適用スルニ非  
 シテ外國法ヲ事實トシテ裁判スルニ在リト主張スル者アリ然レトモ唯言語ノ  
 爭アルノミニシテ外國法ヲ適用スルコトアルハ疑ナシ之ニ反シテ刑事事件ニ  
 付テハ其國裁判所ハ必ス自國法ノミヲ適用シテ外國法ヲ眼中ニ置タコトナシ  
 是レ各國ニ通シテ認ムル原則ナリ故ニ外國ニ於テ爲シタル犯罪ト雖モ我刑法  
 ヲ解釋シテ刑ヲ適用スルモ毫モ妨ケナシ是ヲ以テ一犯罪ニ付キ兩國ハ獨立シ  
 テ裁判權ヲ有スル結果ヲ生ス  
 外國ニ於テ確定判決ヲ受ケ我國ニ歸來シタルトキハ如何ニ處分スルカ我國裁

判所ノ下シタル判決ニシテ確定判決ト爲リタルトキハ既判力ヲ有スルヲ以テ  
 一事不再理ノ原則ニ依リ當然免訴セラルヘカラスト雖モ外國裁判所ノ確定判  
 決ノ效力ニ付テハ三説アリ第一説ハ既判力ハ何國ニ於テモ主張スルコトヲ得  
 ルカ故ニ外國ノ確定判決ト雖モ之ヲ認メサルヘカラスト云フニ在リ此説ハ或  
 ハ將來ニ於テハ行ハルルコトアルヘキモ今日ニ於テハ之ヲ許サス諸國ハ此  
 説ヲ認ム第二説ハ確定判決ノ效力ハ同一國且ツ同一ノ法律ニ於テ裁判シタル  
 場合ニノミ生スルモノナルヲ以テ外國ノ確定判決ハ之ヲ認メス畢竟確定判決  
 ハ國際公法上之ヲ認メス何トナレハ各國ノ主權ハ各獨立ノモノニシテ縱令一  
 犯罪ニ付キ既ニ他國ニ於テ處罰スルモ他ノ一國モ亦之ヲ罰スルコトヲ得ルハ  
 當然ノ結果ナレハナリト第三説ハ外國ノ既判力ヲ認ムルモ其犯人カ執行ヲ逃  
 レ來リタルトキハ之ヲ所罰スルノ權アリト云フニ在リ予ハ第二説ヲ以テ當  
 得タルモノト信ス  
 茲ニ又外國ニ於テ處刑済ノ者本國ニ歸來シタルトキハ其既判力ヲ認メサルモ  
 其刑ハ之ヲ通算スルモノトシタル國法ナキニ非ス我新刑法草案ノ如キ是ナ

外國裁判所ノ下シタル裁判ハ我國ニ於テ如何ナル效力ヲ有セシムルモノナリ  
 ヤ此點ニ付テモ民事ト刑事トハ大ニ其趣ヲ異ニス民事ニ付テハ我民事訴訟法  
 ハ明カニ之ヲ認メ強制執行ヲ許ス即チ執行判決ヲ爲スモノナリ而シテ執行判  
 決ハ原判決ノ當否ヲ審理スルニ非スシテ唯其判決ノ確定シタルヤ否ヤ及ヒ其  
 判決ハ執行スルコトヲ得ル場合ナルヤ否ヤ等ヲ審理スルモノナリ同法第五一  
 四條第五一五條參照然ルニ刑事裁判ニ付テハ民事ト全ク反對ニシテ絕對ニ之  
 カ執行ヲ許サス是レ國家獨立權ヨリ生スル結果ニシテ刑事ニ付テハ各國裁判  
 ノ手續執行ノ手續等ヲ異ニスルヲ以テ之ヲ共助セス唯共助スル場合ハ外國ノ  
 逃亡犯罪人ヲ逮捕シテ外國ニ引渡スノ一事アルノミナリ故ニ外國ノ刑事判決  
 ハ我國ニ於テ全然其執行力ヲ認メタルヲ以テ何等ノ效力ナキモノトス左レハ  
 其結果トシテ第一内國人カ外國ニ於テ刑事裁判ノ結果公權ヲ剝奪セラレ其他  
 處刑ヨリ生スル無能力者タルモ我國ニ歸來スルトキハ其公權剝奪又ハ無能力  
 ナ認ムルコトナシ第二外國人ナルトキハ之ヲ區別シテ論スヘキモノトス即チ

裁判ヲ爲シタル國以外ノ國民ナル場合ハ第一ノ場合ト同一ニ決論セサルヘカ  
 ラス之ニ反シテ判決ヲ爲シタル國ノ人民ナル場合ニ付テハ或學者ハ本國ニ於  
 テ無能力者ト爲ルトキハ其無能力ノ原因ハ其者ニ隨伴スルモノニシテ何國ニ  
 行クモ完全ノ人ニ非スト曰ヘリ是レ一應理アリト雖モ學者ノ輿論ハ全ク之ニ  
 反シ外國主權ノ下ニ在ル間ハ完全ナル能力ヲ有スルコトト爲セリ  
 外國裁判所ノ下シタル判決ハ再犯加重ノ原因ト爲ルヤ否ヤ是レ再犯加重ノ原  
 因ト爲ラス蓋シ外國裁判所ノ判決ノ效力ハ單ニ其國ニ限ルモノニシテ他國ニ  
 何等ノ影響ヲ及ボササルモノナリ  
 外國裁判所ノ下シタル私訴判決ノ效力ハ之ヲ二箇ニ區別シテ說明セサルヘカ  
 ラス即チ(一)ハ民事裁判所ノ下シタル判決ノ效力ニシテ私訴ハ公訴ト其運命ヲ  
 同セウス故ニ此點ヨリ觀察スレハ刑事ト同一ニ論セサルヘカラサルカ如キモ  
 其性質ハ民事上ノ不法行為ニ基クモノニ外ナラサレハ被告タル者カ何レノ國  
 ニ在リト雖モ確定シタル判決ノ執行ヲ免ルルコトヲ得ス故ニ我國ニ於テハ執  
 行判決ヲ爲シテ執行セシメサルヘカラスト論決セサルヲ得ス(二)ハ刑事裁判所

ノ爲シタル私訴ノ判決ニシテ此判決モ亦同ク元來民事ノ性質ノモノナレハ執行スルコトヲ許ササルヘカラス要スルニ民事裁判所ノ下シタル判決ト刑事裁判所ノ下シタル判決トヲ問ハス其執行ヲ補助スヘキモノトス  
終ニ附言スヘキハ刑法ノ效力ハ我國ノ版圖内ニ於テハ全然其效力アルコトハ疑ナキモ若シ犯罪人カ我國版圖内ヲ出テタルトキハ如何一國ノ主權ハ其版圖内ニ止マルコトハ上述ノ如シ故ニ外國ノ領土内ニ主權ノ及ハサルハ言フ埃ダス加之公海上ニ於テハ何レノ國モ主權ヲ及ホスモノニ非ス故ニ我國ニ於テ犯罪ヲ爲シタル者カ我國ノ領土内ヲ逃レ出テタルトキハ我國ノ司法權並ニ警察權ハ之ヲ追及スルコトヲ得ス然レトモ右ノ法則ヲ嚴正ニ執行スルトキハ一國ノ刑罰權ハ不遑固ト爲リ公安ヲ維持スル能ハサルニ至ルカ故ニ各國條約ヲ締結シテ犯罪人引渡ノ條約ヲ爲スニ至レリ而シテ犯罪人引渡條約ハ古昔羅馬希臘時代ニ於テモ之ヲ爲シタルコトアリ然レトモ其趣ヲ異ニシテ常ニ國事犯ノミ之ヲ爲シ非國事犯ノ如キハ之ヲ引渡シタルコトナシ今日ニ於テハ國事犯ハ引渡スコトナク非國事犯ノ場合ノミ之カ引渡ヲ爲スニ至リ全ク反對ト爲レリ

此引渡ノ事ハ各國法律ヲ以テ之ヲ規定スルニ至リタリ我國ハ明治二十年勅令第四十二號ヲ以テ之カ規定ヲ爲セリ而シテ引渡ノ性質ハ各條約國相互ニ其法規ヲ連帶保障スルモノナリ故ニ犯罪人ノ引渡ハ各條約國ノ法律上及ヒ適用上同一ノ基礎ヲ有セサルヘカラス其同一ノ基礎トハ自國ニ於テモ犯罪ト爲シ他國ニ於テモ亦犯罪ト爲ス場合ヲ謂フ然レトモ是レ相互ニ其國ノ刑法ヲ以テ外國ニ於テ犯罪シタル犯罪人ニ直接適用スルニ非スシテ其者カ我國刑法ノ原則ヲ侵犯シタル者ナリト云フ意味ナリ故ニ我國ニ於テ不論罪又ハ時效ニ罹リタル犯罪ニ付テハ犯罪人ヲ引渡スコトヲ要セス  
茲ニ疑ノ存スルハ犯罪人ヲ引渡スハ各國相互間ノ自然義務ナリヤ否ヤ之ヲ自然義務ナリト主張スル者ハ國際法ノ鼻祖タル和蘭ノグロチウニスニシテ其理由トスル所ハ引渡ヲ求メラレタルニ其引渡ヲ拒ムハ其犯罪人ノ共犯人ト謂フヘシ故ニ請求國ハ戰爭ヲ爲スモ仍ホ之ヲ請求スルノ權利アリト云フニ在リ然リト雖モ今日ノ學者ハ引渡ノ義務ハ條約ヲ締結シタルヨリ生スル義務ト爲セリ隨テ無條約國ハ引渡ヲ請求スル權利アリ又義務アリト謂フコトヲ得ス畢竟

契約ヨリ生スルカ故ニ一箇人ハ容喙ノ權利ナシ尙ホ此條約ハ既往ニ遡ルノ効力アリ即チ條約前ニ逃走シ來リタル犯罪人ト雖モ之ヲ逮捕シ引渡スヘキモノトス

犯罪人引渡ニ關スル要件ヲ掲ケレハ四箇アリ

第一條件 逃亡犯罪人カ必ス外國人ナルコトヲ要ス 條約國ニ勿論無條約國ニ國籍ヲ有スル者ト雖モ自國以外ノ人民ハ之ヲ引渡セトモ自國民ハ之ヲ引渡スコトナシ而シテ自國民ヲ引渡ササルノ理由ハ他國ノ要求ニ應スレハ自國ノ主權ヲ害セラルルニ因ル蓋シ犯罪人アルトキハ其國主權ヲ以テ處罰スヘキモノナルニ若シ他國ノ要求ニ應ストスレハ他國ノ主權ヲ以テ自國ノ刑罰權ヲ侵害セラルルヲ以テナリ然レトモ之ヲ學理上ヨリ觀察スレハ非難スヘキノ點ナキニ非ス蓋シ犯罪地ノ裁判所ニ於テ之ヲ裁判スルハ直接犯罪ノ場所ナルヲ以テ審理上最モ便利ナルニ之ヲ引渡ササルハ此原理ニ背反スレハナリ尤モ自國臣民ト雖モ亦引渡ス場合ナキニ非ス前述セシ我勅令第一條ノ末項ニ其例外ノ規定アリ(一)犯罪人引渡條約ニ交互其臣民ノ引渡爲スヘキ條款アルトキ是レ各國互

ニ其條約ヲ締結シタルモノナレハ其條約ノ結果之ヲ引渡スヘキハ當然ナリ(二)引渡條約ニハ交互ノ任意ヲ以テ其國臣民ヲ引渡スコトアルヘキ旨ノ條款アリ且フ請求國ヨリ自國臣民モ引渡スヘキ旨ヲ申出テタルトキ是ナリ尙ホ茲ニ疑問ニ屬スヘキコトハ犯罪人カ逃亡後歸化シタルトキハ之ヲ引渡スヘキヤ否ヤ此問題ニ付テハ二說アリ第一說ハ歸化ノ効ハ遡及ノ效力アルヲ以テ之ヲ引渡スヘキモノニ非ストシ第二說ハ縱令歸化スルモ引渡ササルヘカラス何トナレハ歸化ノ効ハ遡及ノ效力アルモ素ト刑罰ヲ免ルルカ爲メ歸化シタルモノナレハナリト我勅令ニハ何等ノ規定ナシ故ニ實際其事實ヲ生シタル場合ハ如何ニ之ヲ處置スルヤ明カナラス予ヲ以テ之ヲ觀レハ第二說ヲ以テ其當ヲ得タルモノナリト信ス

第二條件 其犯罪カ引渡條約ニ掲ケタル犯罪タルコトヲ要ス 各國間ニ條約ヲ爲シテ其犯罪ノ種類ヲ定ム而シテ各國一般ニ通シテ宗教上ニ關スル犯罪風俗ニ關スル犯罪國事ニ關スル犯罪ハ之ヲ掲ケス何トナレハ此種ノ犯罪ハ各國ノ人情風俗慣習上ニ因リ異ナルヲ以テ同一ニ認ムルコト能ハス故ニ多クハ引

渡犯罪ノ中ニ加フルコトナレバ、其國ニ於テハ、  
 第三條件 其犯罪カ請求國被請求國ノ法律ニ照シ罰スヘキ行爲ナルヲ要ス  
 既ニ一言シタル如ク同一ノ基礎ト云フコト是ナリ然レトモ國際法ノ發達スル  
 ニ隨ヒ此ノ如キ條件ヲ要セザルコト爲ルヘシ何トナレハ刑罰權ノ共助ヲ爲  
 スノ精神ニ反スレハナリ

第四條件 引渡要請國ハ刑罰權ヲ有スル國ナルコトヲ要ス 屬人主義ヲ採ル  
 ニ於テハ自國人カ外國ニ於テ犯罪ヲ爲シタルトキハ其國ハ刑罰權ヲ有スルモ  
 其權利ノ發生スルハ犯罪人ノ歸來ヲ待チテ始メテ生スルモノナルヲ以テ犯罪  
 人ノ歸來ニ先チ其引渡ヲ要求スル能ハサルモノナリ  
 茲ニ注意スヘキハ犯罪人ノ爲シタル行爲ニ付キ我國裁判所モ裁判權ヲ互有ス  
 ルトキハ如何ニ之ヲ處置スヘキヤ此場合ハ司法大臣ノ意見ニ一任スルコトト  
 セリ是レ引渡條例第六條ニ規定スル所ナリ尙ホ注意スヘキハ逃亡犯罪人カ我  
 國ニ於テ他ノ事件ニ付テ審理中又ハ刑ヲ執行中ナルトキハ免訴無罪又ハ刑ノ  
 執行済等ノ上ニ非サレハ引渡スヘキモノニ非ス是レ自然ノ理ニシテ引渡ハ他

國ノ刑罰權ヲ補助スルカ爲メ自國ノ刑罰權ヲ拋棄スルノ理由ナケレハナリ  
 犯罪人引渡ノ手續ハ各國ノ法律一定セズ之ニ三箇ノ主義アリ  
 第一主義 犯罪人ヲ引渡スヘキモノナルヤ否ヤヲ決定スルハ裁判所ノ裁判ヲ  
 以テ之ヲ爲ス此主義ハ英國ノ採用スル制度ナリ  
 第二主義 引渡ヲ爲スヘキヤ否ヤヲ決定スルハ一ニ行政官ノ職權ヲ以テ之ヲ  
 爲ス歐洲大陸ハ皆此主義ナリ我現行條例モ亦此主義ヲ採レリ  
 第三主義 引渡ヲ爲スヘキヤ否ヤノ決定ハ裁判所ノ意見ヲ聽キ君主ニ於テ之  
 ヲ決ス此主義ハ白耳義ノ制度ナリ  
 我現行ノ手續ハ外國政府ヨリ引渡ノ請求アリタルトキハ其請求書ハ外務大臣  
 ヲリ司法大臣ニ送リ司法大臣ハ各檢察正ニ犯罪人逮捕方ヲ命ス檢察正ハ其命  
 令ニ因リ逮捕狀ヲ發ス又場合ニ因リテハ假逮捕狀ヲ發ス而シテ其犯罪人ヲ逮  
 捕シタルルトキハ檢察正ニ引渡シ檢察正ハ司法大臣ニ其旨ヲ上申ス司法大臣  
 ハ引渡請求書及ヒ附屬書類ヲ檢察正ニ送附シ檢察正ハ之ニ依リテ審問シ人違  
 五非ナルコト實際犯罪者ナルコトヲ確メ既決之囚徒ナルトキハ人違六キコト



及ヒ裁判確定セルコトノ認定ヲ終リタル後司法大臣ニ意見ヲ添ヘ具申シ司法大臣ニ於テ引渡ノ當否ヲ決定スヘキコトト爲シタリ。然レモ此等ノ事關キ人ノ自由ニ問題アルハ二國以上同時ニ引渡ヲ要求シタルトキハ孰引渡ハ如何ニスヘキヤ此問題ニハ種種ノ説アリ或ハ其重キ犯罪アリタル國ニ引渡スヘシト曰ヒ或ハ自國ニ最モ近キ國ニ引渡スヘシト曰ヒ又或ハ最初ニ要求シタル國ニ引渡スヘシトノ説ヲ唱フル者アリ我現行條例ハ最後ノ説ニ據レリ又裁判權ヲ互有スル場合ニハ何レノ國ニ引渡スヘキヤ事件ノ異ナル犯罪ニ付テ要求シタル場合ト同シク論決セサルヘカラス。然レモ此等ノ事關キ人ノ自由ニ問題アルハ孰引渡ノ效力ハ他ナシ犯罪人ヲ請求國ニ引渡スニ在リ而シテ引渡ヲ受ケタル國ハ之ニ對シ刑罰權ヲ行フモノナリ茲ニ疑ノ生スルハ其裁判所ハ引渡要  
 求書ニ記載シタル犯罪ニ付キ裁判スヘキハ言フ埃タス然レトモ其犯罪人カ他ノ犯罪アリタルトキハ之ヲ裁判スルコトヲ得ルヤ否ヤ此點ニ付テハ學說一定セズ一説ニ依レハ他ノ犯罪ニ付テハ裁判權ヲ有セス何トナレハ其犯罪人ヲ引渡シタルハ兩國間ノ好意上ヨリ爲シタルモノナレハ其引渡請求書ニ記載セサ

ル犯罪ハ豫想外ノ犯罪ナレハ之ヲ裁判スルコトヲ得サルハ請求國ノ義務ナレハナリト云フニ在リ他ノ一説ニ依レハ請求書ニ記載ナキモ條約中ニ在ルトキハ之ヲ罰スルコトヲ得又請求書ニ記載ナキモ之ヲ豫知セタルトキハ之ヲ記載スルハ容易ノ事ニシテ二箇ノ犯罪アルカ爲メニ引渡サスト云フカ如キ理ナケレハナリ加之再ヒ逃走シ來リタル場合ニ之ヲ請求スルトキハ之ヲ引渡ササルヘカラサルヤ勿論ナリ故ニ裁判スルコトヲ得ヘシト云フニ在リ後説ヲ以テ穩當ナリト信ス然レトモ國事犯タリシトキ又ハ條約外ノ犯罪ナリトキハ之ヲ裁判スルコトヲ得ス

外國船舶ノ乗組員逃走シタルトキハ其船舶ノ航海ヲ補助スルカ爲メニ我司法權ヲ以テ逮捕シ引渡スヘキモノナリ此事ニ付テハ明治三十二年法律第六十號ヲ以テ發布シアレトモ其規定ノ説明ハ之ヲ畧ス

### 刑法總論 終



法律學叢書

刑法總論

三十三學期編者

三十三學期編者

刑法總論目次

緒言.....一

第一章 刑法例.....八

第二章 刑例.....三五

    第一節 刑ノ原則.....三六

    第二節 刑ノ區別.....三九

    第三節 刑ノ處分.....四二

    第四節 刑期計算.....五八

    第五節 期滿免除刑ノ時效.....五九

    第六節 復權.....六〇

第三章 加減例.....六二

第四章 不論罪及減輕竝ニ刑ノ全免.....六三

    第一節 不論罪.....六三

刑法總論目次

第二節 刑ノ全免及ヒ宥恕減輕……………九四

第三節 自首減輕……………一一〇

第四節 酌量減輕……………一二三

第五章 再犯……………一三〇

第六章 加減順序……………一四八

第七章 數罪俱發……………一五四

第八章 數人共犯……………一七六

第九章 未遂犯……………二〇七

第七章 親屬例……………二一九

餘論……………二二三

刑法總論目次

終

臣民籍ハ親族上ノ關係ニ因リテ當然之ヲ取得スルコトアリ又國法上ノ法律行  
爲ニ因リテ之ヲ取得スルコトアリ

第一 親族上ノ關係ニ基クテ取得

(一) 出生 子ノ出生シタル時父ノ日本人タルトキハ日本ノ臣民籍ヲ取得ス其詳  
細ハ國籍法ノ第一條乃至第三條ニ規定セリ而シテ其出生地ノ日本國內タルト  
外國タルトテ間ハサルナリ凡ソ血統ヲ以テ臣民籍ヲ定ムル標準ト爲ス主義ヲ  
血統主義ト謂フ各國多ク此主義ヲ採ル然ルニ又或國ニ於テハ領地主義ヲ採ル  
コトアリ領地主義トハ苟モ其領地内ニ於テ出生シタル者ハ總テ其國ノ臣民ト  
爲スノ主義ナリ各國若シ其主義ヲ異ユスルトキハ臣民籍ノ衝突ヲ來スコトア  
リ例ヘハ日本ニ於テハ血統主義ヲ採リ英國ニ於テハ領地主義ヲ採ルトセハ英  
國ニテ出生シタル日本人ノ子ハ日本ニ於テハ日本人ト爲スモ英國ニ於テハ英  
領地内ニ生レタル子ハ總テ英國人ト爲スカ故ニ一人ニテ兩國ノ臣民籍ヲ有ス  
ルコトアリ之ヲ積極的ノ衝突ト謂フ若シ又其國人カ日本ニ於テ出生シタルト  
キハ日本ノ臣民籍モ又英國ノ臣民籍モ其ニ之ヲ有セザルニ至ル之ヲ消極的衝

突ト謂フ此等ノ衝突ハ條約又ハ各國ノ特別規定ニ依リテ之ヲ避ケルコトヲ得  
 血統主義ト領地主義ハ共ニ一利害アリ領地主義ニ據レハ唯單ニ其領地内ニ  
 於テ出生シタル事實ノミヲ以テ出生者ノ臣民籍ヲ定ムルカ故ニ臣民籍ノ證明  
 甚タ簡單ナリ然レトモ外國人タル父母カ偶ニ日本ニ來リテ其子ヲ出産シタル  
 場合ニ直チニ之ヲ日本人ト爲スハ人情ニ適シタルモノト謂フコトヲ得ス之ニ  
 反シテ血統主義ニ從ヘハ父母若クハ其一方カ日本人タルトキニ其子ヲ日本人  
 ト爲スカ故ニ人情ニ適セリト謂フコトヲ得ヘシ然レトモ外國人ノ子孫カ日本  
 ニ於テ出生シ永ク日本ニ在留シ且ツ日本ノ保護ヲ受クルニ拘ラス尙ホ日本ノ  
 臣民籍ヲ有セス隨テ日本人ト同一ノ義務ヲ負擔セストセハ國家ニ於テ不利益  
 ナリト謂ハサルヘカラス故ニ國籍法ニ於テハ原則トシテ血統主義ヲ採リ例外  
 ノ場合ニ領地主義ヲ探レリ即チ日本國內ニ於テ生レタル子ニシテ父母共ニ皆  
 レナルトキ又ハ國籍ヲ有セサルトキハ之ヲ日本人ト爲ストノ規定アリ(國籍法  
 第四條)

- (二) 認知 外國人タル子カ日本人タル父又ハ母ニ依リテ認知セラレタルトキ同  
 法第五條第三號)
- (三) 婚姻 日本人ト婚姻シタル外國人タル女ハ日本人臣民籍ヲ取得ス同法第五  
 條第一號殊ニ婚姻解消後ト雖モ其解消ニ因リテ外國ノ國籍ヲ有セサルトキハ  
 尙ホ之ヲ保有ス同法第一九條)
- (四) 入夫 外國人カ日本人ノ入夫ト爲リタル場合同法第五條第二號)
- (五) 養子 外國人カ日本人ノ養子ト爲リタル場合同法第五條第四號)
- 第二 國法上ノ法律行為ニ依ル取得即チ臣民籍ノ付與 臣民籍ヲ付與スルハ  
 内務大臣ノ權限ニ屬ス臣民籍ノ付與ハ國法上ノ法律行為ニシテ殊ニ雙意的的法  
 律行為ナリ即チ臣民籍ヲ取得セント欲スル者ノ承諾ヲ要ス換言スレハ臣民籍  
 付與ハ合意ニ因リテ之ヲ爲スモノナリ臣民籍付與ナル行為ノ性質ニ付テ二説  
 アリ一ハ即チ合意說ニシテ他ハ單獨行為說アリ合意說ヲ採レル者ハ「ラバン  
 ド」イデ「反ヒ」エリリ「チック」等ナリ單獨行為說ヲ採ル者ハ「マイエル」  
 「ツォオル」  
 「ホ」  
 「ン」  
 「ハ」  
 「ック」  
 「ク」  
 「ナ」  
 「リ」

「ワタル」ノ説ニ據レハ何人ト雖モ臣民籍ノ付與ヲ請求スル權利ヲ有セス縱令臣民籍付與ヲ請求スル者アルモ國家ハ隨意ニ之ヲ斥ケルコトヲ得故ニ合意行爲ニアラス國家ノ一方行爲ナリト云ヘリ然レトモ此理由ノミニテハ臣民籍付與行爲カ合意ニアラサルノ證ト爲スコトヲ得ス若シ氏ノ歸ニシテ眞ナリトセハ例ヘハ買賣ノ如キモ亦之ヲ合意上ノ行爲ト謂フコト能ハサルニ至ヘシ何トナレハ何人モ他人ニ對シテ或物品ヲ賣渡スヘシト請求スル權利ヲ有セザレハナリ

又「マイエル」ノ説ニ據レハ臣民籍ノ付與ハ國權ノ一方行爲ナリ固ヨリ之ヲ付與スルニハ臣民籍ヲ取得セント欲スル者ノ意思ヲ要スト雖モ是レ唯付與ヲ爲スニ要スル條件タルニ過キヌモ付與行爲ノ要素ニアラス故ニ縱令此條件ヲ充タヌモ付與行爲ノ法律上ノ效力ヲ生スルモノニアラスモ唯兼效力ニ瑕疵ヲ生セザルノミナリト稱レトモ或行政官廳方或事ヲ命令シ得ルハ一箇人カ一般ニ國家ニ對スル義務アルトキニ限ル而シテ外國人タル一箇人ハ日本ノ臣民籍ヲ取得スヘキ一般ノ義務ヲ負擔スルコトナシ其取得スルコト否トハ全ク外國人ノ

自由ナリ故ニ國家ノ官廳ト雖モ處分令ヲ以テ日本人タルヘキコトヲ命令スルコトヲ得ス故ニ外國人タル一箇人カ若シ臣民籍付與ヲ承諾セザルトキハ本來有效ナル命令ノ行爲カ唯瑕疵ヲ有スルノミナリト云ヌニアラスシテ初ヨリ不成立ノ行爲ナリ

又「ボルンハツク」凡テ合意ハ雙方ノ當事者カ同等ノ地位ヲ有スルトキニノミ生シ得ヘキモノナリ然ルニ國法上ノ行爲ニ付テハ同等ノコトナシ即チ一方ハ支配シ他ノ一方ハ服従スルモノナルカ故ニ合意ノ生スヘキモノニアラスト云ヘリ然レトモ臣民籍ノ付與ヲ受ケル者ハ國家ノ領土内ニ存留スル者ニ限ラス外國ニ在ル者アリ此外國ニ在ル者ニ對シテ國家カ命令スルコトハ到底能ハサル所ナリ

臣民籍付與ヲ國家ノ一方行爲ナリトスルト合意ナリトスルトハ其結果ニ大ニ異ナル所アリ即チ外國人ノ意思ハ唯行爲ヲ妨害セザル條件タルニ過キヌトモハ尙モ特別ニ其條件ヲ履マサルトキハ無効ナリトカ或ハ取消スコトヲ得トカ云ヘル規定ナキ以上ハ一タヒ付與行爲ヲ爲セハ之ヲ無効トスル理由ナシ故ニ

「マイエル」(「ポルン」ハ「タク」等ノ説ニ從ヘハ外國人カ毫モ日本ノ臣民籍ヲ取得スル意思ナキトキト雖モ仍ホ日本人ト爲ルト謂ハサルヘカラス之ニ反シテ臣民籍付與ハ合意ナリトセハ一方ノ意思即チ外國人ノ意思アルニアラサレハ其合意成立セサルカ故ニ日本人ト爲ルコトナシ是レ兩説ノ異ナルヨリ生スル結果ナリ蓋シ臣民籍付與ヲ合意ト云フモ固ヨリ債權法等ニ於テ合意ト云フト大ニ其趣ヲ異ニシ其性質ハ却テ親族法上ノ合意例ヘハ養子ノ合意等ト相類スルモノナリ凡テ此ノ如キ合意ヲ國法上ノ合意ト名ツク

臣民籍ノ付與ニ生來ノ日本人以外ノ者ニ關スルト素ト日本人タリシ者ニ關スルトノ二種アリ第一ノ場合ヲ歸化ト謂ヒ第二ノ場合ヲ臣民籍ノ回復ト謂フ歸化ハ內務大臣之ヲ許可ス内務大臣カ許可スルニハ一定ノ條件ニ適合シタル者タルヲ要ス國籍法第七條歸化ノ條件ハ國籍法第七條第二項ニ掲タル所ナリ然レトモ內務大臣ハ此等ノ條件ヲ具備スル者ニ對シテモ必スモ之ヲ許スノ義務ナシ何トナレハ外國人ハ歸化スルノ權利ヲ有スルモノニアラサレハナリ

臣民籍回復トハ素ト日本人タリシ者カ日本ノ臣民籍ヲ失ヒタル後再ヒ日本ノ

臣民籍ヲ取得スルヲ謂フ此臣民籍回復ノ條件ハ歸化ノ條件ヨリ甚タ簡單ナリ(國籍法第二五條第二六條)

### 第二款 臣民籍ノ喪失

臣民籍ノ喪失モ親族上ノ關係ニ因リテ生スルコトアリ

其一 認知 即チ外國ノ國籍ヲ有スル父カ其子ヲ認知シタル場合

其二 婚姻 日本人タル女カ外國ノ國籍ヲ有スル者ト婚姻シタル場合

其他任意ノ志望ニ依ルコトアリ國籍法第二十條ニ依レハ日本人カ任意ニ外國ノ臣民籍ヲ取得シタルトキハ日本ノ臣民籍ヲ喪失ス然レトモ任意ノ志望ニ依ル臣民籍ノ喪失ニハ種種ノ制限アリ即チ陸海軍ノ現役ニ服スル義務アルトキ其他官吏タル間ハ外國ノ臣民籍ヲ取得スルコトヲ得ス

以上述フル所ノ外尙ホ領土變更ノ場合ニ臣民籍ヲ取得シ或ハ喪失スルコトアリ

第一節 領土ノ性質

古代人口未タ大ニ繁殖セス地球上到ル處生活ヲ營ムコトヲ得タリシ時ニ當リ  
 ラハ各人民種族ハ互ニ水草ヲ逐フテ移轉シ一定ノ居所ヲ有セザリシカ故ニ地  
 球ノ一部分ヲ畫シテ自己ノ領分ト爲スノ必要ナク隨テ領地ノ觀念起ラザリシ  
 ナリ然ルニ文化進歩シ人口繁殖シ各人民ノ種族増加スルニ隨ヒテ自ラ地球上  
 ニ一定ノ區畫ヲ立テ之ヲ自己ノ領分ト爲シテ他人ヲ排斥スルノ必要ヲ生セリ  
 是ニ於テカ領土ノ觀念漸ク各人民種族ノ間ニ起リ殊ニ宗教ト政治ト相別ルルニ  
 至リ宗教ハ土地ノ區域ヲ限リテ行ハルモノニアラス政治上ノ團體ノ區域如何  
 ニ拘ラス其支配ヲ及ホスコトヲ得之ニ反シテ國家ノ支配ハ一定ノ區域ヲ限リ  
 テ行ハルモノナルカ故ニ領土ハ國家ノ一ノ要素タルニ至レリ然レトモ封建  
 時代ニ於テハ領土ハ君主ノ一人ノ私法上ノ權利ノ目的ト看做サレ之ヲ併合  
 又ハ分配スルニモ君主ノ財產上ノ處分權ニ基クモノト理會セラレタリシカ近

世ニ至リ國家ノ觀念明カナルニ隨ヒ統治權ハ所有權ト異ナリ隨テ領土モ亦財  
 產上ノ性質ヲ有スルモノニアラス全ク國法上ノ性質ヲ有スルモノナルコト明カ  
 ナルニ至レリ然ラハ領土ハ國法上如何ナル性質ヲ有スルカ多數ノ公法家ハ領  
 土及ヒ人民ヲ以テ統治權ノ目的物ナリト曰ヘリ然レトモ曾テ述ヘタル如ク所  
 謂目的物トハ統治權ノ相手方即チ義務者ナリトノ意義ニ於テ謂フトキハ敢テ  
 不可ナルナシト雖モ若シ此意義ニ於テ領土ヲ統治權ノ目的物ナリト云ハハ誤  
 レル説明ナリト謂ハサルヘカラス何トナレハ土地ハ統治權ニ對シテ義務ヲ負  
 擔スル主體ニアラザレハナリ故ニマイエル等ハ領土ハ統治權ノ目的物ナリト  
 ノ説明ヲ爲ササルナリ凡テ領地トハ公ノ權力及ヒ其一定ノ作用ニ對シテ效力ノ  
 範圍ヲ定ムル地球ノ一部分ヲ指スモノニシテ例ヘハ市町村ノ領地ト云ヘハ  
 市町村ノ權力ノ及フ土地ノ範圍ヲ謂フカ如ク國家ノ領地ト云ヘハ國家ノ統治  
 權ノ行ハルヘキ範圍ヲ定ムル土地ノ區畫ヲ謂フ即チ領土トハ國權ノ場所ニ關  
 スル範圍ヲ定ムルモノナリ國家ハ領土内ニ於テ國權ヲ完全ニ行使スルコトヲ  
 得即チ積極的ニハ其領土内ニ在ル總テノ人ニ對シテ統治權ヲ行フコトヲ得ヘ



ク土地ニ對シテハ或處分ヲ爲スコトヲ得ヘシ又消極的ニハ其領土内ニ於テハ外國ノ權力ノ作用ヲ排斥スルコトヲ得ルモノトス此積極消極ノ二箇ノ性質ハ領土ニ伴フ所ノ當然ノ效力ナリ唯國際法上制限アル場合又ハ國際條約ニ依リテ特ニ或負擔ヲ認定シタル部分ハ固ヨリ例外ナリ

凡テ國權ハ其領土内ニ於テ完全ニ行ハルルヲ原則トス然レトモ亦臣民籍ニ追隨シテ行ハルルコトアリ故ニ國權ハ領土内ニ行ハルルニ止マルモノト臣民籍ニ追隨シテ行ハルルモノトノ二種ニ區別スルコトヲ得臣民籍ニ追隨シテ行ハルル場合ニハ之ヲ臣民高權ト謂ヒ領土内ニ行ハルル場合ニハ之ヲ領土高權ト謂フ外國人若シ我領土内ニ來テハ國家ノ支配ヲ受ケサルヘカラス是レ即チ領土高權ノ作用ニ基クモノナリ然レトモ臣民高權ト領土高權トハ全ク其性質ヲ異ニスル二種類ノ權利ニアラス其實全ク同一國權ノ作用ニ過キサルナリ領土高權ノ性質ニ付テハ學者間ニ其說明各相異ナレリ或學者ハ道路ヲ作り水道ヲ鑿リ又ハ土地收用ヲ爲ス如キ土地ヲ實際ノ目的物ト爲シ權能ヲ指シテ領土高權ノ作用ナリト說明セリ然レトモ此等ノ作用ハ國權ノ作用カ偶々土地ト相關聯

シテ發シタルニ過キス決シテ實際上他ノ國權ト異ナル所ノ特別ノ權能ニアラサルナリ又ラバント民ハ國家ノ領土ニ對スル權ト臣民ニ對スル權トヲ分チ領土ニ對スル權即チ領土高權ヲ國法上ノ物權ナリトセリ即チ國家カ領土ニ對シテ有スル權ト臣民ニ對シテ有スル權トヲ區別シテ曰ク國家ハ其目的ヲ達スル爲メニハ唯臣民ヲ支配スルノミニテハ未ダ足レリトセズ尙ホ土地ヲ其支配ニ服セシメサルヘカラス故ニ領土ハ國家支配ノ目的物ナリト此說ハ必スシモ誤レル說明ナリト謂フコトヲ得ス然レトモ領土高權ヲ此ノ如ク國權カ土地ヲ自由ニ利用スルコトノミニ權能ト爲ストキハ範圍狹キニ失スルモノト謂ハサルヘカラス何トナレハ國權カ外國人ヲ支配スル如キハ土地ヲ自由ニ處分スル作用ニアラス又臣民籍ニ基ク國權ノ作用ニモアラサルカ故ニ其所屬ヲ失フニ至レハナリ又ザイデル氏ハ領土高權トハ國權カ領土内ニ於テ土地ヲ自由ニ處分スルコトヲ謂フニアラス國權カ其土地ノ上ニ行ハルルコトヲ他ノ國權ニ依リテ妨害セラレサル消極的ノ性質ヲ指スモノナリ即チ他ノ國權ヲ領土ヨリ排斥スル性質ヲ言ヒ表ハスニ過スト曰ヒ而シテ又一方ニハ外國人カ國權ノ作用ヲ

受クルハ此領土高權ノ效力ニ基クモノナリト曰ヘリ若シ領土高權ヲ消極的ノ性質ヲ言ヒ表ハスモノナリト説明セハ何ニ據リテ外國人ヲ積極的ニ支配スルカ生スルカ明瞭ナラサルニ至ルヘシ故ニ「ラバント」及ヒ「ザイデル」説明ハ一方ニ偏シタル說ナリト謂ハサルヘカラス凡テ國家ノ統治權ハ領土内ニ完全ニ行ハルルモノナリ隨テ土地ヲ自由ニ處分スルコトヲ得ヘク又領土内ニ在留スル外國人ニ對シテモ支配ヲ及ホスコトヲ得ルモノナリ領土ハ國權ノ及フ場所ノ範圍ナルカ故ニ日本人タルト外國人タルトヲ問ハス土領土内ニ於テハ均シク支配スルコトヲ得ルモノトス然レトモ既ニ支配スルコトヲ得ト云ヘハ其效力トシテ他ノ國家ヨリ妨ケラレサルコトハ自ラ包含スルモノナリ凡テ權利ニハ消極的ノ效力ト積極的ノ效力トヲ含有スルモノニシテ一方ニ偏スル效力ハ之ヲ理會スルコトヲ得サルナリ

## 第二節 領土ノ變更

帝國トハ日本ノ領土ヲ指スモノナリ然レトモ大日本帝國トハ必スシモ具體的ノ一定ノ境域ヲ指シテ言ヘルモノニアラス國家ノ統治權ノ及フ場所ノ範圍全體ヲ一ノ單位ノモノト看做シ其單位ニ付シタル所ノ名稱ナリ故ニ統治權ノ及フ場所ノ範圍ハ實際如何ニ擴張セラレルモ亦如何ニ減縮セラレルモ均シク大日本帝國ナリ此大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇カ獨リ之ヲ統治スト云フコトヲ明カニシタルモノナリ此大日本帝國ノ領土ヲ分チテ或ハ府縣郡ト爲シ或ハ市町村等ト爲スモ憲法上ヨリ之ヲ云ヘハ均シク國家ノ領土ニシテ全ク單位ノモノナリ然レトモ帝國ノ組織ヲ更メテ一ノ聯邦國又ハ共領國ト爲スハ憲法上能ハサル所ナリ何トナレハ若シ此ノ如クスレハ萬世一系ノ天皇カ獨リ之ヲ統治スト謂フコト能ハサレハナリ之ニ反シテ領土ヲ他國ニ割讓スルハ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ外國ノ憲法ニ於テハ或ハ領土ノ割讓ヲ禁スルコトアリ然レトモ非常ノ事變アル場合ニ國土ノ一部分ヲ割讓スル必要ハ固ヨリ生シ得ヘキ所ナリ故ニ領土ノ割讓ヲ絕對ニ禁スルコトヲ得サルヘシ但シ斯ル憲法ノ存在スル國ニ於テハ先ツ憲法ヲ變更シテ然ル後領土ノ割讓ヲ爲ササルヘカラス又或國ノ

憲法ニ於テハ領土ノ地理上ノ區域ヲ掲ケタリ斯ル國ニ於テ領土ヲ割讓スル如キハ固ヨリ憲法ヲ變更スル必要アリトス又或國ノ憲法ニ於テハ國家ノ領土ハ憲法制定當時ノ範圍ヨリ成立スト規定セリ此等ノ國ニ於テハ憲法ノ變更ヲ爲スニアラサレハ領土ノ變更ヲ爲スコトヲ得サルナリ又或國ノ憲法ニ於テハ領土ノ變更ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムトノ規定ヲ設ケシ國アリ我憲法ニ於テハ領土割讓ヲ禁スル明文ナシ又領土ノ一定ノ區域ヲ憲法ニ規定セサルカ故ニ之ヲ割讓シ得ルコトハ明カナリト謂ハサルヘカラス何トナレハ國家ノ全部ノ禍ヲ避クルカ爲メニ又ハ國境整理ノ爲メニ必要ナル場合ニ於テ一部分ノ國法ヲ割讓スルハ國家ヲ保持スルニ於テ止ムヲ得サル作用ナリ若シ斯ル作用ヲ禁スル趣意ナリセハ明文ヲ以テ之ヲ規定スヘカリシニアラスヤ然ルニ斯ル禁止ノ明文ナキヲ以テ觀レハ國家ノ當然ノ作用ニ任セタルモノト推定セサルヲ得サルナリ又領土ヲ割讓スルニ憲法變更ノ手續ヲ經ルコトヲ必要トセス何トナレハ憲法ニハ日本ノ領土ヲ地理的ノ名稱ヲ掲ケテ列舉セズ而モ大日本帝國ト云フハハ全ク抽象的ノ觀念ニ付シタル名稱ナルカ故ニ其實際ノ領土ノ廣狹ニ變動ア

ルモ抽象的ノ觀念ハ其影響ヲ受クルモノニアラス領土ノ變更ニ因リテ憲法ノ條文ト毫モ抵觸ヲ生スルコトナケレハナリ又之ト同一ノ理由ニ據リ領土ヲ新ニ増加シタル場合ニ於テモ亦憲法ヲ變更スル必要ナキナリ

之ニ反シテ領土變更ノ場合ニ特ニ法律ヲ要スルコトナキヤ外國ノ憲法ノ如ク法律ヲ要ストノ明文アレハ固ヨリ論ナシト雖モ我國ノ如ク斯ル明文ナキ場合ニ於テハ果シテ如何若シ領土變更ノ爲メニ法律ニ變更ヲ來ス場合ヲ生スレハ即チ法律ヲ要スルニアラサルカノ疑ヲ生ス例ヘハ衆議院議員選舉法ノ如キハ某縣某郡ヨリ議員何名ヲ選出スヘキヲ規定ス又裁判所ノ管轄區域法ニ於テハ某縣某所ニ控訴院地方裁判所等ヲ設ケルノ規定アリ此等ノ地方ヲ外國ニ割讓スレハ衆議院議員選舉法裁判所管轄區域法ハ變更ヲ受タル結果ヲ生スルカ故ニ即チ領土ノ變更ハ法律ヲ以テ定ムルコトヲ必要ナルカ如ク見ユ然レトモ凡テ一國ノ法令ハ其國家ノ統治權ノ行ハルルコトヲ條件トシテ其效力ヲ有スルモノナリ今其地方ヲ外國ニ割讓スルトキハ其割讓地ニハ從來ノ國權ハ既ニ行ハレサルナリ國權已ニ行ハレサレハ國權ノ行ハルルコトヲ條件トシテ效力ヲ有

スル法令ハ總テ當然或ハ變更セラレ或ハ消滅スルモノト謂ハサルヘカラス故ニ此場合ニハ特ニ法律ヲ以テ規定スル必要ナシト信ス之ニ反シテ領土變更ノ場合ニハ國法上何等ノ手續ヲ要セサルカ即チ國法上何等ノ手續ヲモ爲サスレテ國法上當然領土變更ノ效力アリヤ蓋シ條約ヲ以テ領土ヲ變更スルモ是レ唯國際法上ノ行爲タルニ過キスシテ國法上ニ於テハ其效力アリト謂フコトヲ得ス國法上ノ效力ヲ生セシムルニハ又特ニ其手續ヲ爲スコト正當ナリト信ス然ラハ其手續ハ如何ト云フニ憲法ヲ變更スルコト又ハ法律ヲ以テ規定スルコトハ憲法上ニ於テハ必要ナラス其領土變更ノコトヲ公布スル手續ヲ爲セハ十分ナリト思惟ス即チ條約ノ公布アレハ國法上ノ手續アリシモノト看ルコトヲ得領土ノ變更ハ行政行爲ナリ故ニ原則上天皇ノ大權内ニ屬ス故ニ天皇カ領土變更ノ條約ヲ締結シテ其條約ヲ公布スルハ即チ國法上ノ領土變更ヲ裁可シ國內ニ對シテ國法上ノ領土タルコトヲ公布スル目的ノ爲メニ出テタルコトヲ推測スルコトヲ得ヘシ故ニ領土變更ノ條約カ公布セラレタル時ヨリ國法上ノ變更ノ效力ヲ生セタルモノト解セサルヲ得ス若シ斯ル行爲アルニアラサレハ國際法

上ノ領土ノ區域ハ當然國法上ノ領土ノ區域ト爲ルモノト推定スルコトヲ得ヤルナリ

### 第三編 國家ノ機關

凡ソ國家ノ意思ハ法律ニ基キ自然ノ一箇人ノ意思ニ依リテ成立スルモノナリ此國家ノ意思ヲ發表スル自然人ハ其國家ノ爲メニ作用スル丈ハ國家ノ機關ト爲ルモノナリ國家ノ機關ト爲ル人ニ或ハ直接ニ憲法ニ依リテ其機關ノ作用ヲ爲シ得ル者アリ或ハ他ノ機關ノ公法上ノ委任ニ因リテ其作用ヲ爲シ得ル者アリ故ニ機關ヲ別テテ直接機關ト間接機關ト爲スコトヲ得ヘシ然レトモ此區別ハ機關ノ地位ヲ充タス者ノ階級ニ付テノ區別ニシテ機關ノ作用ノ效力ニ付テノ區別ニアラス何トナレハ總テ機關ノ發表シタル意思ハ直接ニ效力ヲ有スルヲ以テナリ苟モ國家意思ノ發表カ確定ノモノナリセハ如何ナル機關カ之ヲ發表スルモ其效力ニ差異アルコトナシ或裁判所ノ確定ノ判決ハ法律又ハ勅令等ト其效力ヲ異ニスルコトナシ

國家ノ機關ハ機關トシテハ人格ヲ有スルモノニアラス機關ノ地位ヲ充タス所  
ノ人ノ意思ハ其權限内ニ於テハ憲法及ヒ法律ノ規定ニ從ヒテ國家ノ意思ト爲  
ルモノナリ國家ハ此機關ノ媒介ニ依リテ意思發表ヲ爲シ又行爲ヲ爲スモノナ  
リ若シ機關ヲ獨立ノ人格トシテ考フルトキハ國家ナル觀念モ亦消滅ス然ルニ  
此機關ノ性質ニ付テハ學理ニ於テモ實際ニ於テモ誤解セララルコト多シ例ヘ  
ハ國家ノ機關ハ獨立ノ人格ヲ有スルモノナリトノ見解ヲ懷ク者多シ君主帝國  
議會國務大臣裁判所等ハ一般ノ考ニ於テハ權利ノ主體ト看做セリ又國法学ノ  
沿革ニ於テモ各機關ハ權利ノ所持人ノ如ク説明スル者アリ或ハ機關ヲ不完全  
ノ人格或ハ機關人格ト云フ如キ説明ヲ爲ス者アリ若シ機關ヲ人格ナリトセハ  
國權ハ各人格ノ間ニ分割セラレテ國家ノ意思ハ單一ナリト謂フコトヲ得サル  
ニ至ル故ニ機關ハ人格ナリト謂フコトヲ得ス

國家ハ唯一ノ機關ニ依リテ作用スルモノニアラス多クノ機關ニ依リテ作用ス  
ルモノナリ換言セハ國家ノ作用ハ多數ノ機關ニ分配セララルモノナリ此各機  
關ニ屬スル國家作用ノ範圍ヲ機關ノ權限ト謂フ機關ハ徒ニ國家ヲ代表スル

ニアラスニテ唯其權限内ニ於テノニ國家ヲ代表スルモノナリ各機關ハ其權限  
ヲ以テ各相對立ス故ニ各機關ノ作用ノ範圍ニ付テノ爭ハ即チ權限ノ爭ナリ權  
限ノ爭議ハ機關ノ權利ヲ目的トスルモノニアラス機關カ國家ノ作用ヲ執行ス  
ヘキ權限ヲ有スルヤ否ヤニ付テ法律ノ解釋ヲ決定スルモノナリ故ニ權限裁判  
所ノ判決ハ權利ヲ判決スルモノニアラスシテ權限ヲ判決スルモノナリ機關ハ  
權限ヲ以テ互ニ相對立スルカ故ニ外觀上多クノ人格カ相對立スルカ如ク見ユ  
ルモノナリ即チ裁判所トシテノ國家ハ行政官廳トシテノ國家ニ對シ國務大臣  
トシテノ國家ハ帝國議會トシテノ國家ニ相對立ス然レトモ國家ハ其作用ヲ各  
機關ニ分配スルコトヲ得ルカ故ニ又其機關ノ權限ニ付テ裁判スルコトヲ得即  
チ君主トシテノ國家ハ國務大臣トシテノ國家帝國議會トシテノ國家ニ對シテ  
意思ヲ發表スルコトヲ得ヘシ故ニ權限ノ主體ハ異ナリト雖モ國家ノ單一ハ之  
カ爲メニ害セララルコトナキモノナリ國家各機關ノ意思發表ハ國家人格ノ内  
部ノ現象ナリ確定ノ國家意思ヲ制定スル所以ノ方法トシテ各機關カ各其意思  
ヲ發表スルモノナリ外部ニ對シテ確定ノ國家意思トシテ表ハラルニハ上級機

關ノ決定ニ依ルモノナリ故ニ機關ハ種種アリト雖モ國家ノ意思ハ之カ爲メニ  
 其單一ヲ失フモノニアラス此國家機關ノ意思發表ハ即チ國家ノ意思發表ナル  
 カ故ニ機關カ其權限内ニ於テ一タヒ發表セタル所ノ意思ハ國家ガ自ら之ヲ廢  
 止スル外ハ消滅スルコトナシ此機關ヲ組織スル自自然人ハ幾度新陳代謝スルモ  
 意思發表ノ效力ニハ毫モ影響ヲ及ホスモノニアラス又或機關ノ掌ル事務ヲ他  
 ノ機關ノ管轄ニ移セタル場合ニ於テモ其事務ニ付テ前ノ機關ノ發表セタル命  
 令ハ之カ爲メニ效力ヲ失フモノニアラス何トナレハ一タヒ機關カ有效ニ爲シ  
 タル命令ハ即チ國家ノ命令トシテ存在スルモノニシテ有效ニ發シタル命令ニ  
 依ルニアラザレハ之ヲ廢止スルコトヲ得サレハナリ

## 第一章 天皇

### 第一節 天皇ノ國法上ノ地位

前ニ述ヘタル如ク國家ニハ其意思ヲ發表スル所ノ機關存在セザルヘカラス然  
 レトモ國家ノ機關ハ或ハ上下ノ關係ニ立チ或ハ主副ノ關係ニ立テテ互ニ同等

ノ地位ヲ有スルモノニアラス國家ニハ必ス最高機關アリテ各機關ノ意思ヲ統  
 一スルモノナリ通常世俗ニ主權者ト謂フハ此最高機關ヲ指スモノナリ我憲法  
 第四條ニ「天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ云云」トアルハ即チ天皇ノ國家  
 最高機關タル地位ヲ明カニシタルモノナリ即チ國家ノ元首トハ機關ノ最高位  
 ヲ占ムルト云フコトナリ故ニ「ザイデル等」ノ言ヘル如ク天皇ハ直チニ國家ト同一ノ觀念ニ  
 スル者ニアラス又「ボルンハック」ノ言ヘル如ク天皇ハ直チニ國家ト同一ノ觀念ニ  
 アラス全ク國家ノ中ニ在ル國家最上ノ機關ナリ故ニ國家ノ元首トハ云ヘルナ  
 リ天皇ハ統治權ヲ總攬ストハ天皇カ國家ノ元首タル所以ノ實質ヲ掲ケタルモ  
 ノナリ即チ天皇ハ國家ノ統治權ヲ總攬スルモノナリ國家ノ統治權ハ皆天皇ヲ  
 經過シテ發スルモノナリ天皇ハ自ら統治權ヲ行ヒ又ハ他ノ機關ヲ設定シ之ヲ  
 シテ行ハシメ及ヒ其方法形式等ヲ定ムルコトヲ得外國ノ憲法ニ於テモ君主ハ  
 國家ノ首長ニシテ國權ヲ總攬スト云フ明文ヲ掲グルモノアリ普魯西ノ憲法ニ  
 於テハ斯ル規定ナシ然レトモ君主ハ執行權ヲ有シ立法權ハ君主ト國會ト其ニ  
 之ヲ行ヒ司法權ハ君主ノ名ニ於テ行フト云フ規定アルカ故ニ普國ノ國法學者

ハ皆君主ハ國權ノ總攬者ナリトノ解釋ヲ爲セリ故ニ此等ノ國ニ於ケルト同シク我國ニ於テモ天皇ハ唯一ノ統治權總攬者ナリ彼ノ英國等ニ於テハ統治權ヲ總攬スル者ハ女王一人ニアラスシテ女王ト國會トナリ凡テ革命ニ因リテ憲法ヲ發シ國會ヲ設ケタル國ニ於テハ君主ト國會トカ國權ノ總攬者ナリト云フ解釋ヲ下ササルヘカラサル場合アリト雖モ我國ノ如ク純然タル君主國ニ於テ革命ノ變動ヲ受ケス即チ革命ニ因リテ憲法ヲ設定セルニアラスシテ全ク君主ノ任意ノ宣言ニ由リテ憲法ヲ發シ議會ヲ設ケタル國ニ於テハ之ニ由リテ天皇ノ統治ノ權限ヲ分割シテ與ヘタルモノニアラス唯制限シタルノミ天皇ノ權限ハ固ヨリ其實質ヲ變更スルモノニアラス唯從前ニ於テハ他ノ機關ニ由リテ制限セラレルコトナクシテ執行ヲ來リタル形體ヲ變更シタルノミ故ニ結局天皇ハ統治權ノ總攬者ナルコトハ憲法以前ト異ナルコトナシ專制君主國ニ於テハ君主ハ唯獨リ國權ヲ總攬スル者ナリ立憲君主國ニ於テモ此關係ヲ異ニスルモノニアラス然レトモ專制君主國ニ於テハ君主ハ其意思發表ニ付テ毫モ制限ヲ受ケス如何ナル事項ニ關シテモ隨意ニ意思發表ヲ爲スコトヲ得ヘシ立憲君主國

ニ於テハ意思發表ノ範圍ハ制限セラルルカ故ニ君主獨リ統治權ヲ總攬スト雖モ何事ニ付テモ隨意ニ意思發表ヲ爲シ得ルト謂フコトヲ得サルナリ天皇ハ統治權ノ總攬者ナリト雖モ之ヲ無制限ニ行使スルコトヲ得サルモノナリ即チ立法權ヲ行フニハ議會ノ協贊ヲ經サルヘカラス  
 天皇カ立法權ヲ行フニハ議會ノ協贊ヲ經サルヲ得サルカ故ニ一方ヨリ之ヲ觀レハ天皇ハ統治權ノ總攬者ナリト謂フコトヲ得サルカニ如ク見ユ此疑ハ如何ニシテ之ヲ解クヘキヤ憲法義解ノ註釋ニ據レハ天皇ハ統治權ヲ總攬ストアルハ統治權ノ主體ヲ謂フ統治權ノ主體ハ天皇ニシテ他ノ機關ト共ニ此權ヲ有スルモノニアラス唯統治權ヲ行フニ當リテハ憲法ノ條規ニ依リテ制限セラル殊ニ帝國議會ノ協贊ヲ要スルモノナリト説明セリ然レトモ統治權ノ主體ハ國家ニシテ君主ニアラサルコトハ嘗テ述ヘタルカ如シ故ニ統治權ノ主體ハ天皇ナリト謂フコトヲ得ス權利ノ主體ト權利ノ行使トノ區別ニ依リテ此疑ヲ解クコトヲ得成ハ「ラバント」ノ說ニ基キテ法律ノ實質ト法律ノ命令トヲ區別シテ此疑ヲ解カントスル者アリ其說ニ曰ク「凡ソ法律ハ實質ト命令ノ二ツノ部分ヨリ成

立ス法律ノ實質トハ權利義務ノ準則ヲ定メタル各條文ナリ此條文ハ或ハ慣習學說或ハ外國法ヨリ之ヲ採用スルモノニシテ立法者自ラ之ヲ考ヘ出スコトヲ必要トセス又事實上ニ於テモ之ヲ考ヘ出スコト能ハサルモノナリ此法律ノ條文ヲ確定スルハ帝國議會ノ權限ニ屬スルモノナリ然レトモ帝國議會ノ確定シタル條文ハ未タ拘束力ヲ有スルモノニアラス法律ノ條文カ拘束力ヲ有スルハ法律ノ命令アルニ由ルモノナリ法律ノ命令トハ條文ニ拘束力ヲ付スル所ノ行為ヲ謂フ帝國議會カ立法ニ協賛スルハ唯法律ノ實質ヲ確定スルニ過キス法律ノ命令ヲ發スルコトニ協賛スルモノニアラス法律ノ命令ヲ發スル者ハ獨リ君主ナリ君主カ法律ノ命令ヲ發スルハ裁可ニ由ル裁可ハ即チ立法行為ニシテ命令ヲ發スル行為ナリ故ニ國法上ニ於テハ裁可即チ立法ナリト謂ハサルヘカラス而シテ此裁可ハ唯君主獨リ之ヲ爲スカ故ニ立法權ハ君主ニ專屬スト謂フコトヲ得ヘシト

固ヨリ法律ハ法律ノ實質ト法律ノ命令トヲ區別スルコトヲ得ヘシ然レトモ法律ノ實質ヲ確定スルノミカ帝國議會ノ權限ナリト謂フハ正當ノ見解ナリト謂

名譽職參事會員モ會中ニ於テハ各一箇ノ議決權ヲ有ス事務繁劇ナル都市ニ在リテハ便宜ノ爲メ市長ハ其事務ヲ此等ノ者ニ分ツコトヲ得即チ其會員モ會議外ニ於テ職務ヲ有スルコトアルナリ此會員ハ其市ノ公民中選舉權ヲ有シ年齢三十歳以上ノ者ヨリ之ヲ選舉ス以上市長助役及ヒ參事會員ニ對スル制限ハ市會議員タル能ハサル制限ト畧ホ同シ

市參事會ハ市行政ノ全般ヲ擔任ス其事務ノ主タルモノハ市會ノ議決ヲ執行スルニ在リ若シ其議決ニシテ權限ヲ越エ又ハ法令ニ違背シ或ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ヲ受ケ其理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ且ツ之ヲ再議セシメ尙ホ之ヲ改メサルトキハ府縣參事會ノ裁決ヲ請フコトヲ得其權限ヲ越エ又ハ法令ニ違背セシメ爲メ停止スルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得市參事會ノ職務ハ之ヲ細說セヌ畢竟市會ニ關シテ說明セシ所ニ關係シテ之ヲ執行スルニ在リ右ノ外法令又ハ指令ニ依リテ特ニ委任セラレタルモノハ格別ナリ



以上ハ市ノ重要ナル機關ヲ述ヘタリ此他市ニ收入役ヲ設ク尙ホ市中ノ區長ニ付テハ既ニ述ヘタリ其他各種ノ委員書記等ニ付テハ之ヲ述ヘス

自治體ノ公務ニ任スル者ニ名譽職ト專務職トノ區別ヲ認ム前者ハ無給ニシテ後者ハ特別ノ技術又ハ學識ヲ要スルカ若クハ其他ノ事情ニ因リテ無給タルコトヲ得サルモノヲ謂フ例ヘハ市長助役收入役ノ如キハ後者ニ屬シ議員ノ如キハ前者タリ町村ニ於テハ町村長助役ハ名譽職タルコト原則ナレトモ時トシテハ之ヲ有給ト爲スコトヲ得區長モ本來名譽職ナレトモ大都市ニ於テハ之ヲ有給ト爲スコトヲ得

市町村ノ吏員ハ有給タルト無給タルトヲ問ハス其職務ヲ怠ルトキハ懲戒處分ヲ受ク其處分ハ三種ニシテ譴責過怠金及ヒ解職是ナリ

終ニ此等ノ吏員ノ辭職ニ付テハ名譽職ハ義務トシテ負擔スルモノナルカ故ニ役ニ辭スルコトヲ許サス專務職ハ然ラズ員ハ其市ノ公共事務ニ關シテ

以上ハ市行政ノ全體ニ付テノ説明オレトモ行政ノ一部タル財政ニ付テハ特ニ之ヲ述フルノ必要アリ

市ハ其財政ヲ行フカ爲メ財產ヲ有セサルヲ得ス市ノ財產ヲ分テ基本財産及ビ普通財産ノ二トス前者ハ不動産及ヒ積立金數ヲ以テ組織シ法律上維持ノ義務ヲ負フモノニシテ唯之ヨリ生スル收入ノミヲ使用スルコトヲ得總テノ市有財產ハ原則トシテ全市ノ共用ニ供ス若シ住民ノ一部ニシテ特別ノ使用權ヲ有セントスルトキハ使用料若クハ加入金ヲ徵收セラレ此使用權ハ市ノ必要アルトキハ市會ノ議決ニ依リテ之ヲ奪ヒ又ハ制限スルコトヲ得財產ヨリ生スル收入使用料手數料料料過怠金其他法律勅令ニ依リテ市ニ屬スル收入ヲ以テ市ノ必要ナル支出及ヒ從前ヨリ法令ニ依リテ賦課セラレ又ハ將來賦課セラレヘキ強制ノ支出ニ充ツ所謂手數料トハ自治體ノ吏員カ職務上特ニ一箇人ノ爲メ手數ヲ要スルノ故ヲ以テ徵收スルモノニシテ使用料トハ營造物等ノ使用ノ爲メ徵收スルモノヲ謂フ右ノ外尙ホ營業ヨリ生スルモノアリ例ヘハ瓦斯局又ハ水道ヨリスルモノノ如シ然レトモ此等ノ收入ノミニテモ到底市ノ經費ヲ維持スルニ足ラサルヲ以テ市税及ヒ夫役現品ヲ徵收スルコトヲ得

市税トシテ賦課スルコトヲ得ルモノヲ分チテ國稅府縣稅ノ附加稅及ヒ直接又

ハ間接ノ特別税ノ二種トス附加税トハ國税又ハ府縣税ニ附加セ均一ノ税率ヲ以テ市ノ全部ヨリ徴收スルモノヲ謂ヒ特別税トハ附加税ノ外別ニ其市限リ税目ヲ起シテ課税スルモノヲ謂フ附加税ノ特別税ニ優レ所ハ附加税ハ納税者カ既ニ國税又ハ府縣税ノ賦課ヲ受ケ居ルヲ以テ更ニ納税收益ノ調査ヲ要セサルノ點ニ在リ特別税ハ使用料及ヒ手数料ト同シク條例ヲ以テ規定シ附加税ニ依ルモ尙ホ不足ヲ生スルトキ之ヲ徴收スルヲ以テ原則トス

納税義務ノ負擔者ハ各住民及ヒ其市内ノ法人ナリ市ノ住民ハ總テ其負擔ニ任ス但シ住民ニアラサル者ト雖モ三箇月以上滞在スル者ハ其初ニ遡リ納税ノ義務ヲ有ス又縱令其市内ニ住居又ハ滞在セサルモ市内ニ於テ土地家屋ヲ所有スルカ又ハ店舗ヲ設ケ營業スル者ハ均シク利益ヲ受クルカ故ニ其物又ハ營業ニ付テ納税義務ヲ負フ此等ノ關係ヨリシテ或ハ課税重複スルノ虞アルヲ以テ之ヲ防クノ方法トシテ第九十四條第九十五條ニ於テ所得税ニ附加税ヲ賦課シ又ハ特別税トシテ之ヲ徴收スル場合ハ市外ノ土地家屋又ハ營業ヨリ收入スル所得ハ之ヲ控除ス尙ホ數市ニ住居ヲ構ヘ又ハ滞在スル者ニ對シテ所得税ヲ課

スルトキハ其所得ヲ各市ニ平分シテ一部分ツツ課税スルノ便法ヲ設ケタリ但シ土地家屋又ハ營業ヨリ收入スル所得ニ對シテハ此規定ヲ適用セストアリ次ニ法人ハ第九十三條ニ依リテ其所有ノ土地家屋營業若クハ之ニ因リテ生スル所得ニ對シテ課税セラル

以上ハ納税義務ノ大體ナリ尙ホ市ニ於テハ夫役現品ヲ徴收スルコトヲ得此規定ノ存スル所以ハ主トシテ便宜上ヨリ來ルモノニシテ夫役ノ如キハ之ニ依リテ納税義務ノ幾分ヲ輕減スルノ便アリ但シ義務者ノ選擇ニ依リ金圓ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得又常ニ代人ヲ出スコトヲ許セリ畢竟夫役ハ專ラ道路堤防等ノ修築水災火災ノ防禦又ハ學校病院等ノ修繕ニ充テラルルモノニシテ市税ヲ納ムル者ニ對シテ賦課セラル其額ハ納税額ニ準シテ之ヲ定ム

右ハ主トシテ經常歲入ニ付キ説明シタレトモ時ニ天災地變ノ生スルコトア事或ハ市ノ事業漸次發達シ之カ爲メ經常ノ歲入ヲ以テ支辨スルコトヲ得サル大リ業ノ起ルヲ免レサルコトアリ之ニ對シ豫メ費用ヲ備フルコトハ困難ナルカ故ニ隨テ將來ノ歲入ヲ利用スルノ道ヲ開クノ外ナシ市ノ公債即チ是ナリ然レト

モ此方法ニ依リテ、將來ノ收入ヲ利用セントセハ常ニ元利ノ償却ニ必要ナル金額ヲ將來ノ收入ヨリ減セラル得ス而シテ負債額ノ多少償還期限ノ長短如何ハ財政上動カラサル影響ヲ及ホスニ由リ公債ヲ募集スルニハ市會ノ議決ヲ經ルヲ要シ且ツ市會ニ於テモ其得易キカ爲メ往往輕率ニ事業ヲ起シ重大ナル負擔ヲ將來ニ及ホスノ虞アルヲ以テ更ニ第百六條ヲ以テ公債償却ノ期限ヲ三十年以内トシ向ホ第百二十二條ニ依リテ内務大臣ノ許可ヲ要ストル所以ナリ公債募集ノ場合ハ第百六條ニ依レハ從前ノ公債ノ元額ヲ償還スル爲メ又ハ天災地變等ノ爲メ已ムヲ得サル支出若クハ市ノ永久ノ利益トナルヘキ支出ヲ要スルニ方リ通常歳入ヲ増ストキハ人民ノ負擔ニ堪ヘサル場合ニ限リ之ヲ起スコトヲ得トアリ

市ハ其財政ノ爲メ先ツ豫算ヲ調製スルヲ要ス豫算ノ調製ハ市參事會ノ職務ニシテ其議決ハ市會ノ職權ナリ若シ法律勅令ニ依リテ負擔スヘキモノ又ハ當該官廳ノ職權ニ依リテ命セラルタル支出ヲ豫算ニ掲ケサルトキハ監督官廳ハ強制豫算ヲ命ス豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出若クハ費目ノ流用ヲ爲スニ當

ラテハ更ニ市會ノ議決ヲ經ルヲ要ス凡ソ豫算並ニ追加豫算又ハ其變更ヲ議決スル場合ニ於テ其事項ニシテ官廳ノ許可ヲ受クヘキモノハ其手續ヲ爲スヲ要ス

豫備費ヲ設クルト否トハ市會ノ議決ニ一任ス

右豫算ニ從ヒテ收支ヲ爲スニ當リ收入役ヲ置ク所以ハ收支ヲ命スル者ト實際ノ出納ヲ爲ス者トヲ分離センカ爲メナリ即チ支拂前ニ當リテ豫算ニ違ハサルヤ否ヤヲ監督セシムルノ便アリ決算報告ノ如キモ亦監査ノ手續ニ外ナラサレトモ是ニ在リテハ既ニ支出セントスルモノナレハ時期ヲ失スルノ恐ナシトセ

ス故ニ收入役ヲシテ命令審査ノ義務ヲ負ハシメ不正ノ命令ナリト認ムルトキハ支出ヲ爲スコトヲ得サラシム若シ之ニ違ヒタル支出ヲ爲ストキハ賠償ノ責任及ヒ懲戒ノ處分ヲ受クヘシ

終ニ決算報告ハ市參事會及ヒ市會ヲ經テ府縣知事ニ向テ之ヲ爲ス其目的ハ計算ノ當否計算ト收支ノ命令トカ適合セルヤ否ヤ又出納ト豫算又ハ法令ト適合スルヤ否ヤヲ審査スルカ爲メナリ此等ノ審査ハ收入役ニ對シテ行ハルモノ

ナリ  
 以上ハ市ノ財政ニ關スル大體ナリ  
 終ニ市行政ノ全般ニ渉ル監督作用ニ付キ説明スヘシ  
 監督ノ作用ハ法律命令ヲ遵守スルヤ否ヤ又事務ノ錯亂滯滞ナキヤ否ヤヲ審査  
 シ必要アルトキハ強制シテ報告ヲ求メ檢閲ヲ行ヒ尙ホ公益ヲ害スル虞アルト  
 キハ之ヲ防キ殊ニ團體ノ財政ニ關シテハ常ニ監督ヲ怠ラサルニ在リ先ツ團體  
 ノ重要ナル吏員ヲ認可ス例ヘハ市長ニ對シテハ裁可ヲ仰キ助役ハ知事ノ認可  
 ヲ受クルカ如シ次ニ議會ノ議決ヲ許可ス例ヘハ市會ノ議決ニシテ内務大臣ノ  
 許可ヲ受ケ又ハ勅裁ヲ仰クカ如キ又ハ内務大藏兩大臣ノ許可ヲ受ケ又ハ府縣  
 參事會ノ許可ヲ受ケ可キカ如シ

第一 條例ノ新設改正

第二 貴重ナル物品ノ處分

内務大藏兩大臣ノ許可ヲ要スル事項左ノ如シ

- 第一 市ノ公價但償還期限三年以内ノモノハ此限ニ在ラズ
- 第二 特別稅使用料手数料ノ新設増設又ハ變更
- 第三 地租五分ノ一又ハ直接國稅百分ノ五十ヲ超ユル附加稅
- 第四 間接國稅ノ附加稅
- 第五 官廳ノ補助金ノ支出
- 府縣參事會ノ許可ヲ受ケヘキ事項左ノ如シ
  - 第一 營造物規則ノ設定改正
  - 第二 基本財産ノ處分
  - 第三 土地使用ノ方法ヲ定ムルコト
  - 第四 均一ノ稅率ニ依ラサル附加稅及一般稅率ニ依ラサル夫役現品ノ賦課
  - 第五 法令ニ依ラスシテ五年以上住民ニ負擔ヲ課スルコト
  - 第六 數箇人又ハ區ニ特別ニ費用ヲ賦課スルコト
  - 第七 各種ノ保證ヲ爲ス場合

行ヒ又必要アルトキハ強制シテ豫算ヲ命スルノ權アリ且ツ市會若クハ市參事會ニ於テ爲スヘキ議決ヲ爲ササルトキハ府縣參事會代リテ議決スルノ方法アリ此等ノ外市參事會カ市會ノ議決ヲ停止スルコトアルハ既に述ヘタル所ナリ市長モ亦市參事會ノ議決ニシテ權限ヲ越エ又ハ公益ニ害アリト認ムルトキハ之ヲ停止スルノ權ヲ有ス

以上ノ外府縣知事ハ市吏員ニ對シテ懲戒處分ヲ行フコトヲ得又市參事會ハ市長以外ノ吏員ニ對シテ懲戒處分ヲ行フ終ニ內務大臣ハ市會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

以上ハ監督權ノ大畧ナリ要スルニ市ノ行政ハ第一次ニ府縣知事第二次ニ內務大臣之ヲ監督ス但特ニ規定アル場合府縣參事會ノ之ニ參與スルコトアリ以上ハ監督官廳カ自己ノ創意ヲ以テ監督權ヲ行フ場合ナリ此他人民ノ申立ニ應ジテ監督權ヲ行フコトアリ即チ訴訟及ヒ訴訟是ナリ此點ニ付テハ市ノ固有事務ト國ノ委任事務ヲ分ゾコトヲ得委任事務ニ付テハ一般ノ規則ニ依リテ之ヲ許スノ外ナシ然ルニ固有事務ニ付テハ亦之ヲ二ツノ場合ニ分ゾコトヲ得即チ

其團體吏員ノ處分若クハ裁決ニ對シテハ此法律ニ明文アル場合ニ限り訴訟ヲ許シ府縣知事又ハ府縣參事會ノ處分若クハ裁決ニ對シテハ一般ニ訴訟ヲ許ス行政訴訟ハ之ニ反シ總テ特別ニ明文アル場合ニ限り之ヲ許ス而シテ行政訴訟ヲ許シタル場合ニ內務大臣ニ訴願スルコトヲ許ササルハ畢竟最上行政官廳ノ裁決ヲ以テ裁判ニ付スルコトヲ避ケンカ爲メナリ

以上ハ總テ市ニ關スル説明ナリト雖モ之ヲ移シテ町村ノ説明トスルコトヲ得ルモノ甚タ多シ故ニ以下單ニ市ト異ナル點ノミヲ述フヘシ

町村ノ地域ニ付テハ市ノ場合ト大體同一ナレトモ唯十分ノ實力ナキ町村ノ獨立スルノ不都合ナル場合ニハ關係者ノ異議ニ拘ラス合併ヲ強制スルコトヲ得又之ヲ不便トスルトキハ第一百十六條ニ依リテ町村組合ヲ設クルノ便法アリ

住民ニ付テハ別ニ述フヘキモノナシ

町村機關モ亦議決機關及ヒ執行機關ノ二種トシ前者ハ町村會ニシテ後者ハ町村長ナリ

町村會ハ必スモ全國ノ町村盡ク之ヲ開クヲ要スルモノニアラス小町村ニ在リ  
 タハ町村制第三十一條ニ依リテ條例ヲ發布シ選舉權ヲ有セル公民ノ總會ヲ以テ  
 之ニ代用スルコトヲ得町村會ノ選舉ヲ行フハ市會ノ場合ト同シク等級ヲ設ク  
 レトモ町村ニ於テハ二級アルノミ町村會ノ議員ノ數ハ人口千五百未滿ノ町村  
 ニ在リテハ八人ニシテ以下人口ニ應シテ増加シテ三十人ニ至ルコトヲ得選舉ノ  
 準備ハ町村長之ヲ掌ル此他町村會ノ職務ハ市會ト類スルヲ以テ別ニ述ヘス  
 町村長ハ町村ノ執行機關ニシテ之ヲ補助スルカ爲メ助役ヲ置テ助役ハ市ノ助  
 役ト異ナリテ全ク町村長ノ補助機關ナリ町村長及ヒ助役ハ普通名譽職トス  
 市ノ町村ト異ナル要點ハ市ニ在リテハ直接ニ府縣ノ下ニ立テ町村ニ在リテハ  
 府縣トノ間ニ郡ノ介在スルアリ隨テ郡長及ヒ郡參事會ノ監督ヲ受ク此點ニ注  
 意セテ市ニ於テ説明セル所ヲ準用セハ可ナリ  
 前ニ一言セシ如ク元來有方ナル町村ヲ設ケテ其上ニ郡ナル自治體ヲ認ムル以  
 上ハ此外別ニ區畫ヲ認ムルノ必要ナク安リニ此ノ如キ區畫ヲ設ケルトキハ事  
 務ノ簡易ヲ缺キ組織錯綜スルノミナラス又費用ノ増加スルヲ免レズ然レトモ

或事務例ハハ水利土木事務ノ如キ廣ク數町村ニ涉ルモノハ町村ノ連合スル亦  
 已ムヲ得サルモノアリ茲ニ於テカ法律ハ町村組合ヲ認ム即チ關係町村ノ協議  
 ヲ以テ組合ノ目的其會議ノ組織事務管理ノ方法及ヒ費用支辨ノ方法ヲ定メ監督  
 官廳郡長ノ認可ヲ經テ組合ヲ設ケルコトヲ得トセリ又町村ニ於テ相當ノ實力  
 ヲ有セサル場合ニ於テ他町村ト合併ノ議整ハサルカ又ハ合併不便ナルトキハ  
 郡參事會ノ議決ヲ以テ強制シテ之ヲ設ケシムルコトアリ此ノ如ク組合ハ素ト  
 町村ノ合併ニアラサルカ故ニ各町村ハ獨立シテ存在シ唯共同事務ニ關シテノ  
 ミ組合存スルナリ組合ノ設置及ヒ其議會ノ組織事務管理ノ方法費用ノ支辨並  
 ニ分擔ノ方法ヲ定ムルニ當リ協議ニ依ルヲ原則トセシハ畢竟町村ノ獨立ヲ害  
 セテランカ爲メナリ而シテ其協議整ハサルトキハ已ムヲ得郡參事會ノ議決  
 ヲ以テ之ヲ強制スルモノトセリ此ノ如ク一旦成立シタル組合ハ監督官廳ノ許  
 可ヲ得ルニアラサレハ之ヲ解散スルコトヲ得ス組合ハ法人ナルヤ否ヤ理山書  
 ニ依ルモ其説明曖昧ナリ然レトモ既ニ區ニ付テ述ヘタルカ如ク其共同事務ノ  
 範圍ニ於テ人格ヲ有スト論スルモ不可ナク改正郡制ニ於テモ郡組合ハ之ヲ法

人トストノ規定アリテ其性質町村組合ト異ナラザルカ故ニ町村組合モ亦之ヲ  
法人ナリトスルハ不當ニアラスト信ス

### 第二節 郡

改正郡制ハ郡ノ法人タルコトヲ明定セラレタリ郡ハ數町村ヨリ成リテ町村ト  
府縣トノ中間ニ位スル團體ナリ其設置分合又ハ境界ノ變更ハ法律ヲ以テスト  
規定セリ而シテ郡ノ境界ニ涉リ町村ノ變動アルトキハ隨テ其境界モ亦變更ス  
郡ノ機關ハ郡會郡參事會及ヒ郡長ナリ  
郡會ハ各選舉區ニ於テ選出サレタル議員ヲ以テ組織ス選舉區ハ各町村ノ區域  
ニ依ルコト通則ナリ但シ特別ノ事情アルトキハ郡會ノ議決及ヒ府縣知事ノ許  
可ヲ經テ數町村ヲ合セ選舉區ト爲スコトヲ得郡會議員ノ數ハ十五人乃至三十  
人ナリ但シ內務大臣ヲ得テ増加シテ四十人ニ至ルコトヲ得  
郡内ノ町村公民ニシテ町村會議員ノ選舉權ヲ有シ其郡内ニ於テ一年以上直接  
圖稅年額三圓以上ヲ納ムルモノハ選舉權ヲ有シ同シク直接圖稅年額五圓以上

ヲ納ムル者ハ被選舉權ヲ有ス

被選舉權ヲ有スル能ハサル者左ノ如シ

第一 所屬府縣及ヒ郡ノ官吏並ニ有給吏員

第二 檢事、警察官及ヒ收稅官吏

第三 神官、僧侶、教師及ヒ小學校教員

又選舉事務ニ關スル吏員ハ其區ニ於テ被選舉權ヲ有セス以上ノモノニシテ其  
職ヲ罷メタル後一箇月ヲ經過セザルトキ亦同シ尙ホ其他ノ官吏ニ付テハ所屬  
長官ノ許可ヲ經ルヲ要ス郡ノ爲メ請負事業ヲ爲ス者亦此權ヲ有セス  
郡會議員ハ名譽職ニシテ其任期ハ四年ナリ選舉ハ町村長之ヲ管理シ選舉人名  
簿ニ依リテ之ヲ行フ投票ノ許否並ニ其效力ニ付テハ立會人之ヲ決シ可否同數  
ナルトキハ選舉長之ヲ決ス選舉人等選舉若クハ當選ノ效力ニ關シ異議アルト  
キハ之ヲ郡長ニ申立テ得ルコトヲ得其異議ニ付テハ郡參事會ノ決定ニ付ス若シ  
不服アレハ府縣參事會ヲ經テ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得規定ニ背反シタ  
ル選舉ハ無効タリ但シ其結果ニ影響ヲ及ホスノ虞ナキトキハ此限ニ在ラス

舊郡制ハ團體選舉ノ方法ヲ採リ各町村及ヒ大地主ノ團體ノ選舉權ヲ認メタリ即チ町村ハ各一名大地主ハ町村ニテ選舉スヘキ數ノ幾分ヲ別ニ互選スヘキコトトナ爲リ舊法ハ管ニ之ニ止マラス廣ク郡ノ構成分子ヲ以テ町村及ヒ大地主ト爲シタリ即チ町村住民ハ間接ニ權利及ヒ負擔ヲ有スルニ過キザリシ蓋シ大地主制度ノ淵源ハ歐洲ノ制度ニ據リシモノニシテ歐洲ニ於テハ古ノ封建制度破レテ中央制ト爲ルニ及ヒ舊來ノ制度ヲ根底ヨリ破却スルノ困難ナルヨリシテ已ムヲ得ス自治制ヲ認メ都市及ヒ領主ニ對シ自治權ヲ與ヘタリ以上變遷アリテ大地主ノ勢力熾ナルヲ以テ郡ニ於テモ亦其構成分子トシテ大地主ナル階級ヲ認メタルハ自然ノ情勢ナリシ然ルニ我國ニ於テハ此ノ如キ沿革ナク封建制類レテ中央制ニ復スルニ方リ領主ノ權力ハ全ク返上セラレタルヲ以テ此等ノ者ヲシテ特別ノ階級ニ立タシムルノ必要ナキニ因リ改正法カ大地主ノ制ヲ廢シタルハ此趣旨ニ外ナラサルヘキ現行法ハ郡ト住民トノ間ニ於テハ原則トシテ直接關係ヲ認メ選舉ノ如キ町村ハ唯選舉區タルニ止マリ町村ノ代表者ヲ選出スルモノニアラスト解釋スルコト穩當ナリ

郡會ノ職權ハ主トシテ財政ニ關セルモノニシテ概言スレハ左ノ如シ

- 第一 歳出入豫算及ヒ決算
  - 第二 不動産其他ノ財産ノ設備管理及ヒ處分
  - 第三 營造物ノ管理
  - 第四 使用料及ヒ手数料
  - 第五 義務ノ負擔及ヒ權利ノ棄却
- 此他法令ニ依リテ權限ヲ有ス尙ホ公益ニ關シ又ハ官廳ノ諮問ニ對シテ意見ヲ述フルコトヲ得且ツ法令ニ依リ選舉ヲ行フモノトス
- 郡長ハ此會議ニ列シ議事ニ參與スレトモ議決ニ加ハルコトナシ郡長ノ委任ヲ受ケタル吏員亦同シ

郡會ハ通常及ヒ臨時ノ二トシ通常會ハ毎年一回之ヲ開ク但シ郡長之ヲ召集シ議事ハ之ヲ公開ス

郡參事會ハ郡長及ヒ名譽職參事會員五名ヲ以テ組織ス參事會員ハ郡會ニ於テ議員中ヨリ選舉ス參事會ノ議長ハ郡長ナリ參事會ノ職務權限左ノ如シ



第一 郡會ノ權限ニシテ委任セラレ又ハ急施ヲ要スルトキハ郡會ニ代リテ

議決スルコト

第二 郡長ノ諮詢ニ應スルコト

第三 郡會ノ議決ノ範圍内ニ於テ財産及ヒ營造物ニ關スルコトヲ議決スル

第四 工事ノ執行、訴訟、訴訟及ヒ和解ニ關スル議決

向ホ參事會ハ委員ヲ選ビテ郡ノ出納ヲ検査スルコトヲ得

參事會ハ郡長之ヲ召集シ議事ハ之ヲ公開セス

以上ハ主トシテ議決機關ニ付キ説明セリ以下執行機關ニ付キ之ヲ述フヘシ

郡制第六十六條ニ依レテ郡長ハ郡ヲ統括シ之ヲ代表ス即チ郡會及ヒ郡參事會

ノ議決ニ基キテ行政ヲ行フ其負擔事務ノ概要左ノ如シ

第一 郡費ヲ以テ支辨スヘキ事件ノ執行

第二 登案ノ事件ノ處理

第三 財産及ヒ營造物ノ管理及ヒ監督

第四 收支ノ命令及ヒ會計ノ監督

第五 郡費、使用料及ヒ手数料ノ徵收

第六 文書ノ保管

向ホ郡參事會ノ權限内ニ屬スル事務ニシテ急速ヲ要シ召集ノ邊ナキトキハ專

決處分ヲ行フコトヲ得但シ後ニ之ヲ報告スヘキモノトス

以下郡ノ財政ニ付キ説明スヘシ

郡ハ其財産ヨリスル收入及ヒ使用料、手数料等ノ雜收入ヲ以テ費用ニ充テ向ホ

不足アルトキハ部内ノ各町村ニ分賦シテ徵收ス其割合ハ其豫算年度ニ前年

度ニ於ケル各町村ノ直接國稅、府縣稅ノ徵收額ニ依ル若シ之ニ依リ難キトキハ

郡會ノ議決及ヒ內務大臣ノ許可ヲ得テ特別分賦ノ方法ニ依ルコトヲ得郡内ノ

一部ニ特別ノ利益アルトキハ內務大臣ノ定ムル所ニ依リテ不均一ノ賦課ヲ爲

シ向ホ必要アルトキハ夫役現品ノ徵收ヲ爲スコトヲ得此等ノ收入ヲ納メザル

者アルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リテ處分ス向ホ郡ハ負擔償還ノ爲メ又ハ

永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ノ爲メ又ハ天災地變等ノ爲メ必要ナル場合ニ限リ

郡會ノ議決ヲ經テ郡債ヲ起スコトヲ得  
 終ニ郡ノ行政監督ニ付キ説明スヘシ  
 郡ノ行政ハ第一次ニ府縣知事第二次ニ内務大臣之ヲ監督ス監督官廳ハ郡ノ行政カ法令ニ違反セザルヤ否ヤ又公益ヲ害セザルヤ否ヲ調査シ之カ爲メ必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲ス又豫算ニ付キ不適當ノ點アルコトヲ認ムルトキハ強制シテ之ヲ削減スルコトヲ得又内大臣ハ郡會ノ解散ヲ命スルコトヲ得  
 内務大臣ノ許可ヲ要スルモノハ貴重ナル物件ノ處分若クハ大ナル變更及ヒ使料手數料ナリ

内務大臣兩大臣ノ許可ヲ受クヘキモノハ郡債ナリ  
 府縣知事ノ許可ヲ受クヘキモノ左ノ如シ

- 第一 不動産及ヒ積立金穀ノ設置及ヒ處分
- 第二 夫役現品ノ賦課
- 第三 繼續費及ヒ特別會計
- 第四 寄附若クハ補助

立ヲ區別シテ完全ナル中立不完全ナル中立ノ二種ニ分ツモノアリ故ニ今日ニ於テモ嚴正中立ナル語アリ然レトモ學問上此ノ如キ語ヲ用フルノ必要ナシ何トナレハ完全中立トハ所謂嚴正中立ニシテ不完全中立トハ交戦國ノ一方ニ對シ多少ノ援助ヲ與フルコトヲ得ルヲ云フ然レトモ是レ固ヨリ舊套ヲ脱セザルノ思想ニシテ中立ノ性質ヨリ之ヲ言ヘハ元來中立ナルモノハ一切交戦ニ關係セザルノ謂ニシテ即チ二箇又ハ敵國ノ國家間ニ戰爭アルニ方リ獨リ一方ニ援助ヲ與ヘザルノミナラス同時ニ雙方ニ對シ同一ノ援助ヲ與フルコトヲモ爲ササルヲ云フ故ニ完全ト云ヒ不完全ト云フカ如キ種類アルコトナシ又學者ニ因リテハ全部ノ中立ト一部ノ中立トヲ區別セリ然レトモ國ノ中立ニハ之ヲ適用スルコトヲ得ス何トナレハ國家ノ動作ハ其一部分ニ於テ中立シ又ハ全部ニ於テ中立スト云フカ如キ區別ヲ爲スコトヲ得サレハナリ是レ畢竟客觀的中立即チ物ノ中立ニ付テ之ヲ云フヘキモノニシテ此ノ如キ見解ヲ取ル學者ハ全ク此二者ヲ混同シタルモノナリ又好意上ノ中立ナルモノヲ認ムル學者アリ然レトモ是レ亦穩當ナラス千八百七十年普佛ノ戰爭ニ際シ英人カ佛國ニ武器ヲ輸送

セシニ由リ獨逸ハ英國ニ對シ好意上ノ中立ヲ以テ其輸送ヲ差止メンコトヲ求メタリ然ルニ英國ハ好意上ノ中立ナルモノナシ若シ一方ニ好意ヲ表シ其好意ニシテ少シク進ムトキハ他方ニ不利益ニシテ中立ノ義務ヲ破フルト一般ナリ故ニ好意上ノ中立ナルモノナシト答ヘタリ然レトモ此ニ注意スヘキハ一國ガ他ノ交戰國ノ一方ニ對シテ好意ヲ表シ同情ヲ表スルハ固ヨリ之ヲ妨クス即チ一方ノ戰爭ヲ不正ナリトシ一方ノ戰爭ヲ正當ナリトモハ成ハ忠告ヲ爲シ成ハ之ヲ非難スルハ其自由ナリ唯其行爲ノ上ニ於テ中立ノ義務ニ背カサルハ足レリ要スルニ好意上ノ中立ナルモノナシ中立ハ一ニシテ種類ナシ

第二 中立ハ任意ナリ

即チ中立ヲ爲スト否トハ其國ノ隨意ナリトス之ヲ換言スレハ其中立ノ規則ヲ遵奉シテ中立國タルノ利益ヲ享クルト又交戰國ノ一方ヲ幫助シテ中立國タルノ利益ヲ享クサルトハ全ク其擇フ所ニ任シテ隨意ニ之ヲ決スルコトヲ得ヘシ然レトモ是レ唯完全ナル主權國ニ付テノ言フヘキモノニシテ半主權國ノ如キハ他國トノ關係上絕對ニ自由ナリト謂フコトヲ得ス而シテ國家カ其選擇ニ

因リ中立ノ態度ヲ取ルニハ其意思ヲ明示スルコトヲ要スルカ此點ニ付テハ今日ノ實際上中立ノ規則ニ從フヲ以テ足レリトモ必スシモ之ヲ宣言スルコトヲ要セス何トナレハ今日國際法上ノ原則トシテハ中立ヲ以テ通則トシ交戰國ノ一方ニ加擔スルハ之ヲ變則トスレハナリ故ニ交戰ノ際中立國カ宣言ヲ爲スハ其宣言ニ因リテ始メテ中立國ノ資格ヲ得ルニアラシテ唯之ヲ表明スルノ方法タルニ過キス果シテ然ラハ中立ノ宣言ハ全ク無用ナルカ否決シテ無用ニアラス即チ必スシモ之ヲ必要トセスト雖モ大ニ有益ナリトス何トナレハ一方ニ於テ中立ノ宣言ヲ爲ササルトキハ交戰國ヨリ多少ノ疑ヲ受クルハ必然ノ勢ナルカ故ニ其中立ノ意思ヲ明示シテ交戰國ノ疑ヲ解クハ中立國ニ取リテ太タ利トスル所ナリ又他ノ一方ニ於テハ中立ノ宣言ニ因リ其所屬國民ヲシテ中立國民ノ權利義務ノ如何ヲ明ニセシムルコトヲ得ルノ利アリ即チ中立ノ宣言ヲ爲スニハ交戰國其他一般ノ國ニ對シテ中立ノ地位ニ立ツヘキコトヲ宣言スルト同時ニ自國ノ臣民ニ對シテ中立國民トシテノ義務ニ背カサルコトヲ命ジ若シ其義務ニ違背スルトキハ國法ノ保護ヲ受クルコトヲ得スシテ國際法上ノ

制裁ヲ受ケサルヘカラサルコトヲ明示スルカ故ニ所屬臣民ハ之ニ依リテ自己ノ守ルヘキ義務ヲ明ニスルコトヲ得ヘシ例ヘハ彼ノ米西戰爭ニ際シ我邦カ中立ノ宣言ヲ爲スト同時ニ右ニ關スル勅令ヲ發センハ諸君ノ熟知スル所ナリ然レトモ此勅令ハ國內法ナルカ故ニ唯中立國ノ官廳及ヒ臣民ニ對シテ拘束力ヲ有スルノミニシテ交戰國其他ノ國ニ對シテ拘束力ヲ及ホササルハ言フヲ埃タナル所ナリ

然レトモ右ノ原則ニ對シニ二箇ノ例外アリ即チ左ノ二ノ場合ニ於テハ國家ハ中立ヲ爲スト否トノ自由ヲ有セス

(一) 永世中立ノ國家 永世中立國ハ他國ヨリ其獨立ヲ侵サレタル場合ニ於テ他ノ國家ヲシテ之ヲ擔保セシメ之ヲ救ハザムルノ權利アルト同時ニ自ラ他國ニ對シテ戰爭ヲ開始スルコトヲ得ス唯防禦ノ爲メニ戰爭ヲ爲スコトヲ得ルノミ隨テ他ノ國家カ交戰國ノ地位ニ立ツ場合ニ於テ自己ノ自由意思ヲ以テ其交戰行為ニ加ハルコトヲ得ス故ニ永世中立國ハ常ニ中立國ノ義務ヲ守ラサルヘカラス即チ中立ヲ守ルト否トノ選擇權ナシ

(二) 攻守同盟ノ場合 此同盟ニハ種種アリ即チ其條約ノ規定スル所ニ因リテ相異ナルモノトス或ハ防禦ノ同盟アリ或ハ攻撃ノ同盟アリ或ハ攻守共ニ同盟スルコトアリ或ハ一定ノ國トノ關係ニ付テノミ同盟スル場合アリ此等ハ皆條約ニ依リテ定ムルノ外ナキカ故ニ一概ニ攻守同盟國ニ如何ナル權利義務アルカラ論定スルコトヲ得ス又假令同盟ノ條約ヲ爲セルモ其同盟カ交戰ノ地位ニ立タル國ニ對シテ直チニ救援ヲ爲スヘキヤ否ヤモ亦條約ニ依リテ之ヲ決セサルヘカラス即チ條約ノ規定如何ニ因リ或ハ直チニ之ヲ救援スヘキモノアリ或ハ請求ヲ受ケテ後救援ヲ爲スヘキモノアリ或ハ多少自己ノ利害如何ニ因リテ之ヲ救援スルト否トヲ決スヘキ場合アリ然レトモ如何ナル場合ニ於テモ苟クモ同盟條約アル以上ハ其條約ニ拘束セラレ他ノ國家ノ如ク自由ノ態度ヲ取ルコトヲ得ス即チ中立ハ任意ナリトノ原則ニ對シテ制限ヲ受ケサルコトヲ得ス

第四 中立國ノ權利義務

中立國ノ權利義務ハ之ヲ分テテ第一中立國政府ノ權利義務事ニ義務第二中立國臣民ノ權利義務ト爲スヲ便トス

第一 中立國政府ノ權利義務

中立國ノ政府ハ交戰國ノ一方ヲ利シ又ハ之ヲ害スヘキ行爲ヲ爲スコトヲ得ス  
 是レ中立國政府ノ義務ナリトス而シテ若シ此義務ニ背クトキハ所謂國際談判  
 ヲ惹起シ其行爲ニ付キ十分ノ責任ヲ負ハサルヘカラス然ルニ中立國ノ臣民カ  
 中立義務ニ違反シタル場合ニ於テハ特別ノ條約ナキ限りハ政府カ直チニ其臣  
 民ノ行爲ニ付キ責任ヲ負ハサルヲ通則トス例ヘハ中立國政府ハ其在外臣民ノ  
 上ニ十分ナル監督ヲ行フコト能ハサルカ故ニ其在外臣民ノ行爲ニ付テハ敢テ  
 責任ヲ負フコトナク若シ其臣民カ所在國ニ於テ中立ノ義務ニ違反セハ其所在  
 國ノ政府之ヲ制止スヘキモノニシテ之ヲ制止スルト否トハ全ク其所在國政府  
 ノ責任ナリ又公海ニ於テ中立義務ニ違反シタル場合ニ於テハ交戰國自ラ之ヲ  
 禁止スヘク即チ相當ノ兵力ニ依リテ之ヲ制止セサルヘカラス而シテ違反行爲  
 ヲ爲シタル臣民ノ屬スル政府ヘ之ニ付テ直接ノ責任ヲ負フモノニアラス即チ  
 此場合ニ於テハ違反者ハ自ラ危險ヲ冒シテ其行爲ヲ爲スモノニシテ普通ノ協  
 合ノ如ク所屬國家ノ保護ヲ受クルコトヲ得サルカ故ニ其所屬政府ハ他國ノ處

分ニ對シ際ヲ容ルルコトヲ得サルナリ故ニ國家自身ノ行爲ト臣民ノ行爲トノ  
 間ニハ區別アリ一言ニシテ之ヲ言ヘハ政府ノ行爲ニ付テハ政府ハ勿論其實ヲ  
 負ハサルヘカラスト雖モ臣民ノ行爲ニ付テハ臣民自ラ其責任ヲ負フノミ收テ  
 國家カ其責任ヲ負フコトナシ若シ政府カ責任ヲ負フ場合アルトキハ是レ自己  
 ノ監督ヲ爲シ其制止ヲ爲スコトヲ得ルニ拘ラス之ヲ爲サザリシ場合ニシテ寧  
 ロ國家自ラ其責任ヲ盡サザリシ場合ナリトス然レトモ實際ニ於テハ往往爭ヲ  
 生スルコトアリ是レ他ナシ交戰國ハ中立國ヲシテ成ルヘク其實ニ任セシメ  
 トシ中立國ハ成ルヘク其責ヲ免レントスレハナリ隨テ一方ハ其義務ヲ廣義ニ  
 解シ他ノ一方ハ之ヲ狹義ニ解セントス然レトモ原則トシテハ右ノ如ク明白ニ  
 爲テ疑ナキニ至レリ

中立國ノ義務ハ左ノ三ニ約言スルコトヲ得

第一 中立國ノ領土内ニ於テハ交戰國ノ一方又ハ雙方ヲシテ如何ナル交戰  
 行爲ヲ爲サシメサルコト

第二 中立國ノ領土以外ニ於テモ中立國ハ如何ナル交戰行爲ニモ干與スル

第三 中立國ハ交戰國雙方ニ對シ完全ナル公平ヲ保チ其一方又ハ雙方ニ對シテ如何ナル幫助ヲモ爲スコトヲ得ス唯リ一方ニ不公平ナル幫助ヲ禁セラルルノミナラス雙方ニ同一ノ程度ノ幫助ヲモ爲スコトヲ得ス而シテ右三ノ義務ハ同時ニ中立國ノ權利ト爲ルカ故ニ中立國ハ左ノ三權利ヲ有ス

- 第一 中立國ハ其領土ヲ尊崇セシムルコト即チ交戰行為ノ外ニ立ツコトニ
  - 第二 廣ク一般ニ中立國ノ獨立權即チ主權ヲ尊崇セシムルコト
  - 第三 中立國ハ其臣民其財產又ハ其國ノ商業ニ付キ國際法ノ原則又ハ慣例ニ於テ認メタル以外ノ害ヲ被フルコトナシ
  - (4) 中立國ハ領土内ニ於テ戰爭行為ヲ爲サシメサルコト
- 中立國ノ兵力如何ニ因リテ或ハ實際ニ行ハレサルコトアリ若シ中立國ノ兵力微弱ナルトキハ此義務ニ違反スルコトヲ強制セラルルコトアリ隨テ雙方共ニ

少シク操縦揮控スル所アラハ社會ヲシテ出獄者收養保護ノ責務ヲ全ウスルニ至ラシメンコト必スモ至難ノ業ニアラサルヘシト信ス我國ニ於テモ往往出獄者保護事業ノ尙ホ未タ徹徹トシテ振ハサルコトヲ痛嘆スル者アリ吾人モ亦之ヲ痛嘆セサルニアラス唯夫レ退キテ我監獄行刑ノ實況ヲ觀察スルトキハ吾人ハ尙ホ未タ獨リ社會ノ曠職ヲ尤ムルノ地位ニ達セラルモノアルヲ憾ム然リト雖モ今ヤ我國監獄改良ノ事業ハ著著其歩武ヲ進メツアルノ時機ニ會ス此時ニ方リ出獄者保護事業ノ事復タ一日モ忽諸ニ付スヘカラス社會有識先覺ノ士ハ言フヲ埃タス國家モ亦或ハ間接ニ或ハ直接ニ或ハ有形的ニ或ハ無形的ニ大ニ之カ發達進歩ヲ勸奨保護スル所ナクンハアルヘカラサルナリ

「フエーリング氏曰ク監獄ノ目的ハ監獄其レ自ラノ作用ノミヲ以テ成就シ得ヘキニアラス社會道德の事業殊ニ出獄人保護事業ノ整備セルヲ待テ始メテ能ク其目的即チ犯罪防滅ノ效ヲ舉タルニ至ルヘシト是ヲ以テ歐米諸國監獄改良事業ニ著手スル所必ス之ニ伴フテ保護事業ノ起ラサルハナシ保護事業ハ北米合衆國「キラデル」ヲキヤ「出獄人保護會社」ニ於テ實行シタルモノヲ創始トシ尋テ

英國ニ於テ「同胞協會」(Fellowship)之ヲ建設シ爾來和蘭(千八百二十三年)「デキマルク」(千七百九十七年)獨逸(千八百二十六年)佛國(千八百三十八年)露國(千八百九十九年)瑞西(千八百二十年)白耳義年紀未詳等ニ於テモ亦種種ノ名稱ノ下ニ公立若クハ私立ノ出獄人保護會社ヲ創立スルニ至レリ經驗ハ改良ヲ促シ初ハ其組織方法ノ極メテ不完全ナルヲ免レテナリシ所ノモノモ年所ノ經過ト共ニ漸次之カ發達進歩ヲ見ルニ至リ殊ニ近代ニ及ヒテハ「一人ニシテ」(トーマス、ホイスタ)「エリチベス」(フリー、フリード、セル)「ローピン」等諸氏獨力以テ此事業ニ熱注シタル者亦前後少カラス且ツ之カ爲メニ費ヤシタル所ノ資財ノ如キ吾人ヲシテ實ニ其巨額ナルニ一驚セシメスンハアラス多額ノ資本ハ果シテ充足スヘキ良好ノ成績ヲ購得スルニ至リタルカ「クローチ」氏曰ク「保護事業ハ幾多ノ努力ト資本トヲ費シタル割合ニハ尙ホ未タ満足スヘキ效果ヲ見ルニ至ルコト能ハス」下是レ蓋シ監獄行刑法ノ未タ不完全ナルヲ免レサルニモ因ルヘシト雖モ亦主トシテ保護事業ノ組織方法其宜シキヲ得サルモノアルニ歸因セザルナキヲ得

予曾テ出獄人保護事業ニ關スル鄙見ヲ開陳シテ之ヲ世ニ公ニセルコトアリ鄙見ニ曰ク

前略保護ノ事業ハ或ハ會社組織ニ由リテ之ヲ施行スルモノアリ或ハ教會事業トシテ其宗務的管理ニ一任スルモノアリ或ハ一人タル有志者ノ計畫ニ委託スルモノアリ或ハ彼此相混用スルモノアリ其方法ハ即チ國又ハ地方ニ依リテ相同セカラス然レトモ出獄者ニ對シ或ハ衣食ヲ給シ又ハ居住ヲ與ヘ或ハ職業ヲ授ケ又ハ職業ニ必要ナル器具若クハ資本ヲ貸付スル等要スルニ良民生活ヲ容易ナラシムルノ便ヲ與フルノ點ニ就テハ毫モ相異ナル所アラサルナリ故ニ其方法ノ何レタルトハ一ニ各地方ノ情況ニ應ジテ便宜措置セシムル所アリテ可ナリ若シ幸ニシテ我國ニ於テモ彼ノ「エリチベス、フリー」ノ「リード」チル「ローピン」等ノ如キ熱心ナル有力者ヲ得ハ保護事業ヲ以テ之ヲ一人ニ委託スルモ亦尠ナラン佛敎ナリ將タ耶蘇敎ナリ其宗務團體ヨリ出獄者ヲ收養保護セント請ハハ之ニ一任スルコト亦決シテ不可アラザルナリ然レ我國ニ於テハ今日俄ニ此ノ如キ熱心家ノ輩出シ得ヘシトモ思ハレザルヲ

以テ差向キ先ツ會社の組織ニ依ルノ外アラサルヘシト信ス而シテ若シ會社の組織ヲ用フルトナレハ實際ハ兎モ角表面ニ規ハルル所ノ事况ハ成ルヘク會社風ナラシメサルヲ主トシ社員即チ會社會社即チ一箇人タル社員ニシテ社員ト會社トハ其關係最モ親密ニシテ終始其運動ヲ一身同體ナラシムルノ注意アルヲ要ス且ツ苟モ社員トシテ加盟スル所ノ者ハ唯リ金力ヲ以テ其事業ヲ助クルノミナラス自ラ保護者タル地位ニ立チテ出獄人ヲ自家ニ引受クルノ義務ヲ負フコト必要ナリ少クモ社員中一部ノ人最モ此事業ニ熱心ナルヲ指定シ出獄人ニ對スル直接ノ信友タリ又ハ相談相手タル者トシテ其保證人又ハ引受人タル義務ヲ負ハシメ出獄人アルトキハ先ツ之ヲ己ニ引キ取ルノ役目ヲ擔當セシムルコトヲ要ス之ヲ要スルニ會社即チ漠然タル無形人トシテ一箇人ニ對スルノ力ハ一箇人トシテ一箇人ニ對スルノ力ニ比スレハ其懇誼上ニ及ホス所頗フル深淺厚薄ノ區別ナキ能ハス况ヤ出獄人ノ如キ類ミ少ク而モ疑心深キ者ニ對スルニ於テヲヤ感化上ニ於テモ亦會社ノ名ヲ以テスルト一箇人ノ身ヲ以テスルトハ大ニ其效力ニ輕重ノ差アルヘキ

ナリ

保護事業ノ範圍如何換言スレハ凡ソ何何ノ事項ニ向テ保護ヲ與フヘキカ曰ク之ニ衣食ヲ與ヘヨ曰ク之ニ居住ヲ與ヘヨ曰ク之ニ職業ヲ與ヘヨ曰ク之ニ生業ノ資本ヲ與ヘヨ曰ク生業ニ必要ナル器具材料ヲ貸付セヨ曰ク之ニ歸郷ノ旅費ヲ與ヘヨ曰ク之ニ信認ノ證券ヲ與ヘヨ曰ク其家族ヲ救恤其他相當ノ保護ヲ加ヘヨ曰ク其父兄ニ仲裁セヨ曰ク其鄉黨ニ和解セヨ曰ク何曰ク何此ニ悉ク其事項ヲ列舉スルコト能ハサレトモ要スルニ出獄者トシテ良民的生活ノ本道ニ復歸セシムルニ必要ナルノ便利ハ成ルヘク多ク之ヲ與ヘサルヘカラス但シ之ヲ與フルニ當リテハ成ルヘク金ヲ以テセステ物ヲ以テセヨ物品ヲ以テセスシテ成ルヘク力ヲ以テセヨ力ヲ以テセスシテ成ルヘク心ヲ以テセヨ心トハ何ソ仁慈是ナリ力トハ何ソ職業是ナリ物品トハ何ソ衣食住是ナリ金ヲ與フルノ場合ハ最モ嚴シク之ヲ緊約セヨ

此等保護ノ事業一トシテ金ヲ要スルコトニアラサルハナク故ニ之ヲ實行セント欲セハ先ツ相當ノ資金ヲ準備シ置カサルヘカラサルコト勿論ナリト雖



モ而モ時宜ニ依リ緩急ヲ酌量シテ之ヲ施行スルニ於テハ事業ノ範圍ヲ伸縮スルコト固ヨリ隨意ニシテ隨テ必スシモ多クノ資金ヲ準備セサルモ之レニ著手スルコトヲ得ヘキナリ即チ若シ保護會社ハ成ルヘク自ラ出獄者ヲ引キ受ケテ之ニ勞働ナリ又ハ職業ナリヲ與フヘキ者ヲ多ク網羅シテ社員トナシ若クハ専ラ職業勞働ノ紹介即チ口入ヲ爲スヲ主トシ止ムナクシハ雇主ニ對シテ幾分ノ保證金ヲ出シ又ハ賃錢ノ幾分ヲ賠償一人前腕前ナキ者ニテモ其生活ニ必要ナル丈ケノ賃錢ハ之ヲ與ヘサルヘカラス而シテ之ヲ與フル者ハ其雇主タルヲ要スルニ由リ雇主ハ之カ爲メニ多少ノ損害ヲ被ラサルヲ得ス故ニ保護會社ハ雇主ニ對シ私ニ此損害ヲ賠償シ被保護人ニハ之ヲ知ラシメサルナリ)スル等差向キ保護ノ最モ急ナルモノノミニ止ムルノ方針ヲ以テ之ニ著手スルトキハ左マテ多クノ資金ヲ作ルコトヲ必要トセサルヘシ各府縣ニ於テ一會社ヲ設ケルカ如キハ極メテ易易タルコトナルヘシト信ス之ニ居住ヲ與ヘヨトハ或一定ノ建物ヲ設ケテ之ニ寄食セシメヨト云フノ義ニハアラサルナリ所謂居住ヲ與ヘヨトハ下宿ナリ借家ナリ普通生活ノ居住

ニ必要ナル便利ヲ與ヘヨト云フノ義ナリ保護會社ノ附屬建物トシテ或ハ工作場ヲ建テ或ハ寄宿場ヲ設ケルカ如キハ却テ最モ保護ノ事業ニ不適當ナルコトト云フヘク其弊ヤ第二ノ監獄ヲ設ケルニ同シク偶マ其事業ノ結果ヲシテ保護會社ヘ監獄ヨリ出テテ監獄ヨリモ尙ホ監獄ナリトノ譏アルニ至ラシムルヲ免レス(クローチ氏曰シ犯罪ノ傳播ヲ防遏スルカ爲メニ囚人ヲ別異セシムルコトハ監獄カ全力ヲ盡シテ汲汲タル所ナルニアラスヤ然ルニ一朝出獄シタルノ故ヲ以テ直チニ之ヲ收養スルニ最モ忌ムヘキ混同雜居ノ方法ヲ以テセントス予ノ苦心シテ養成シ得タル所ノ赤子ヲシテ此ノ如キ保護會社ニ託スルコト能ハスト當局者宜シク反省スル所アリテ可ナリ保護會社カ收養保護スヘキ所ノ出獄者ハ唯リ長期ノ者ノミニ限ルヘカラス短期囚ト雖モ亦之ヲ收養スルコトヲ要ス否短期囚ノ如キ者コソ却テ大ニ保護ノ必要アルモノニシテ其效能モ亦顯著ナルヘキナリ但シ其長期ナル者ト短期ナル者トニ論ナク保護スヘキ者ハ先ツ之ヲ保護スルニ足ルヤ否ヤ且ツ能ク保護ノ目的ヲ達スヘキ見込アル者ナルヤ否ヤヲ精察シ十分

取捨選擇スル所アルヲ要ス故ニ監獄ト保護會社トハ常ニ密接ナル聯絡ヲ保テ且ツ會社ノ役員又ハ擔當者ハ平生監獄ニ出入シテ能ク各因ノ技能ナリ品行ナリ身分ナリ性質ナリ等ヲ勘査シ置クコト必要ナリ保護會社ハ其信用ズヘキ見込ナキ者ヲハ保護スルカ如キコトアル勿レ之ヲ他ニ紹介スルカ如キコトアルニ於テハ忽チ會社ノ信用ヲ害シ唯サヘ不快危虞ノ感情ニ支配セラレツツアル所ノ社會ハ益々其感情ヲ強メ終ニ復タ會社ノ紹介ニ應スル者ナキニ至ルヘシ故ニ被保護人選拔ノ事ハ此事業新創ノ今日ニ於テ殊ニ最モ慎重ノ注意ヲ要スヘキコトナリト謂フヘシ漫ニ其數ノ多加ランコトヲ求ムル勿レ先ツ社會ヲシテ此事業ニ對スル信用ヲ厚カラシムルコトヲ眼メヨ云云

經驗スル所ニ依リ殊ニ白耳義ニ於テ失敗セシ事跡ニ徴シ之ヲ觀ルニ出獄人保護ノ事業ハ決シテ政府ノ機關ヲ以テ之ヲ管理シ能ク其目的ヲ達シ得ヘキニアルス宜ク純粹ナル慈善事業トシテ之ヲ民間ノ有志ニ放任シ政府ハ唯之ヲ勸奨保護スルニ止ムルヲ以テ得策ト爲スモノノ如シ政府或ハ自ラ此事業ニ關

係シ或ハ警察的ノ視察監督ヲ加フルカ如キハ決シテ其宜シキヲ得タルモノニアラス(監視中ノ者ト雖モ保護會社ノ支配ニ屬スルノ間ハ假ニ監視ヲ免シ若クハ大ニ其制限ヲ寬恕スル所アルヲ要ス)巴丁司法大臣ノ訓令ニ曰ク「出獄後倚頼スル所ナキ者ヲ收養シ之ヲ保護監督スルハ素ト慈善的公共ノ事業ニ屬ス若シ官司事業トシテ之ヲ行フトキハ終ニ其目的ヲ阻止スルニ至ルヲ免レズ故ニ此事業ハ監獄其他ノ官署ニ於テ濫ニ之ニ干渉スルカ如キコトナク總テ民間有志者ノ計畫ニ一任スヘシ無類ノ流氓ヲ收養シテ社會犯罪ノ豫防ヲ爲シ社會ノ安固ヲ計ルハ實ニ民間有志者ノ慈善の本分ナリト謂フヘシ云云ト此事業ヲ以テ民間有志者ノ計畫ニ一任スヘキコト固ヨリ其宜シキヲ得タルモノナリト雖モ殊ニ其未タ幼稚ナルノ間ハ政府モ亦成ルヘク權力努力及ヒ金力ヲ以テ相當ニ之ヲ勸奨保護スルノ注意ナクシテハアルヘカラス且ツ此事業ハ動モスレハ輒チ慈善的ノ範圍ヲ脱シテ職業の事ト投機的營利事業ニ陥ルノ弊アルヲ免レサルヲ以テ當局者タルモノ須ク慎重ノ注意ヲ加フル所ナクシテハアルヘカラス

出獄人保護ノコトニ付テハ我政府亦夙ニ此ニ見ル所アリ二十二年七月改正監獄則發布ノ當時ニ於ケル内務大臣ノ訓令ニ曰ク

今般勅令第九十三號發布ノ改正監獄則ニ於テハ舊則第三十條ノ規程ヲ廢セラレタリ然ルニ彼ノ刑餘類ル所ナキ者ヲシテ其爲スニ一任スルトキハ遂ニ復タ罪ヲ犯スニ至ルノ恐レアリ依テ彼輩ヲ保護シテ自營ノ道ヲ得セシムルノ設計アルヲ要ス既ニ各地方ニモ往往其企アリト雖モ尙此際一層此ニ注意シ有志ノ慈善者ヲ獎勵シテ保護會社ヲ設立スルカ又ハ其他ノ方法ヲ立テ差向奮則第三十條ニ該當スル者ヲ措置シ漸次刑法附則第三十二條及同第四十七條ニ該當スル者ヲモ引取ラシメ夫夫自營ノ道相立候様精注意計畫セラ

ルヘシ云云

訓令發布後年所ヲ經ルコト此ニ殆ト五周歲而モ尙ホ未タ一ノ完全ナル保護事業ノ組織實行セラルルモノアルヲ見ス

保護會社ノ事業ハ近來被保護人ヲ本國ノ所領地ナル未開墾ノ殖民地方ニ移住セシムルニ至リタルヨリ以來一層大ニ其規模ヲ擴張スルニ及ヘリ移住の保護

ヲ加フヘキ所ノ者ハ第一未タ良心ヲ消滅スルニ至ラサル再犯以上ノ出獄者ニシテ其郷里ニ於テ生計ヲ營ムニ困難ノ事情アル者(第二)少壯有爲ノ出獄者ニシテ其犯罪ハ所謂少年血氣ノ餘勇ニ出ラタル所ノモノナルモ歸郷以テ復タ親屬故舊ニ見ユルヲ憚ル等ノ事情アル者及ヒ(第三)官吏僧侶教師商賈等所謂世人ノ信用ヲ受クヘキ身分ニ於テ犯罪ヲ爲シタル者等ノ類即チ是ナリ此ノ如キ者ハ即チ若シ之ヲ繋累ナキ新社會ノ地ニ轉任シ銳意以テ其新生活ヲ營マシムルヲ得ルニ至ラハ必ス能ク保護事業ノ目的ヲ貫徹スルニ至ルヘキナリ

保護會社ノ事業トシテ尙ホ一ノ特別ナル管掌ヲ要スル所ノモノアリ幼年出獄者保護ノコト即チ是ナリ幼年者ノ保護ハ放縱且ツ醜惡ナル教育ノ欠點ヲ矯正スルヲ以テ要務トスヘシ教育感化ハ適正ナル家族若クハ特ニ幼年者感化場トシテ設ケタル場所ニ於テ始メテ能ク其目的ヲ達スルヲ得ヘシ如何ナル場合ニ論ナク幼年者ト成年者ト同一ノ屋舎ハ勿論同一ノ組織同一ノ管理ノ下ニ之ヲ收養保護スルカ如キコトナキヲ要ス

「フランゼーバツ」氏曾テ我國ニ適用セシムルノ目的ヲ以テ出獄人保護會社ノ

規程ヲ草案セリ 掲ケテ以テ讀者ノ參考ニ供ス  
出獄人保護會社規則草案

會社ノ目的

第一條 會社ノ目的ハ出獄人ニ對シ精神及身體上ノ保護殊ニ生業ヲ得ルノ道ヲ紹介シ其行狀ノ端正ヲ獎勵シ以テ良民社會ニ復歸スルコトヲ容易ナラシムルニ在リ

被保護人

第二條 會社ノ保護ヲ受クヘキ者ハ保護ヲ志願シ且保護ヲ與ルノ價直及之ヲ要スルノ必要アル男囚ニ限ル  
被保護人ハ其恒ノ生業ヲ得ルカ又ハ確乎タル地位ヲ得テ真心改良スルカ或ハ他國ニ移住スルカ若クハ不都合ノ所爲アル迄ノ間ハ保護ヲ受ルコトヲ得ヘシ  
放免囚ハ監獄本署ニ於テ刑ノ執行ヲ受タル者ト支署ニ於テ執行ヲ受タル者トニ論ナク凡テ會社ノ保護ヲ受クルヲ得ヘシ刑事被告人懲治人勞務囚

ニシテ出獄シタル者モ亦之ニ準スルコトアルヘシ但シ幼年者ハ特別ノ方法ヲ以テ之ヲ保護スル者トス

社員及ヒ社友

第三條 支社ハ各區裁判所管内ニ之ヲ設ケ一定ノ社費年金ヲ拂ヒ若クハ保護者タルヲ承諾スルノ義務ヲ充ス所ノ者ヲ以テ社員トナス社員外ト雖モ職務上或ハ地位上會社ノ事業ニ利益ヲ與フル所ノ者ハ社友トシテ之ヲ待ツヘシ

役員會計及ヒ會議

第四條 各支社ニ役員ヲ置ク其數ハ適宜トス役員ハ會社ノ事務ヲ專攝スルノ權利ヲ有ス役員ハ會社ノ事業ニ關シ會議ヲ召集シ又ハ之ニ協議ヲナシ若クハ之ニ報告ヲナスコトヲ得會議ハ社員ノ五分ノ一以上ノ請求ニ依テ之ヲ召集スルコトアルヘシ

支社ノ會計ハ各年度ノ初ニ於テ精算ヲナシ之ヲ中央管理部ニ報告スルモノトス會社ノ金庫ニ屬スル者左ノ如シ  
第一 現在若クハ未來ニ得有スヘキ基本金及ヒ其利子社費及ヒ寄附金但

シ此寄附金ハ保護ノ目的ニ適スル事業ニ就キ自由ニ之ヲ使用スルヲ得  
ヘシ

第二 給與工錢其他囚人ニ屬スル貯蓄金但シ解放若クハ他ノ會社ニ移ス  
場合ニ於テ殘額アルトキハ之ヲ本人ニ交付スルカ或ハ市町村役場ニ轉  
送スルカ又ハ他ノ保護會社ニ送付スヘキ者トス

第三 中央金庫ヨリ交付セラレタル準備金但シ此金員ハ特ニ中央管理部  
ニ於テ指定シタル事業ニノミ費消スヘキ者トス  
會社ノ保護事業

第五條 放免者ハ其住居セント欲スル地ノ會社ノ保護ヲ受ルヲ得ヘシ但シ  
其地若シ會社所在ノ地ニ非ルトキハ役員ハ此者ヲ其居住地ニ住居スル所  
ノ社員若クハ社友ニ寄託スルコトアルヘシ  
社員若クハ社友ニ寄託スル場合ニ於テハ先ツ前以テ被保護人ノ品行目的  
職業等ヲ調査シ之ヲ報告スルヲ要ス受託者ハ之ニ由リテ被保護人到著ノ  
前ニ於テ豫メ相當ノ職業ヲ周旋シ置クモノトス

被保護人ハ直接ニ其放免地ニ寄託スヘシ故ニ被保護人ハ必要ナキ限ハ先  
ツ一旦會社所在地ニ至ルヲ要ス

第六條 他ノ府縣ニ在ル保護會社ニ移スコトハ中央管理部ノ指揮アルヲ要  
ス但シ中央管理部ハ必要アル場合ニ於テ之ヲ指揮ス

第七條 出獄後直ニ保護ヲ出願スル者ハ時宜ニ從ヒ之ヲ許可スルコトアル  
ヘシ

保護事業ノ範圍

第八條 被保護人ノ保護ハ役員ヲシテ之ヲ引受ケ又ハ社員社友或ハ近親者  
ヲシテ保護人タラシムルコトアルヘシ保護人ハ時時會社ニ向ヒ其事業ノ  
成績ヲ報告スヘシ

一ノ保護人ヲシテ保護セシムル被保護人ノ數ハ相當ニ制限ヲ設ケ以テ其  
管督保護ニ不便ナカラシムルヲ要ス  
被保護人ハ或ハ特ニ教育ヲ施スカ爲ニ之ヲ相當ノ家族又ハ感化院ニ送付  
スルコトアルヘク或ハ職業ヲ習熟セシムルカ爲ニ適當ナル技術家ノ下ニ



送付スルコトアルヘク或ハ日傭工錢ヲ得セシムルカ爲ニ貧院養育院等ニ送付スルコトアルヘク或ハ就業證書ヲ交付シテ紹介スルコトアルヘク或ハ歸郷若クハ移住ヲ容易ナラシムルノ手當ヲナスコトアルヘク或ハ典物ヲ受ケ出サシムルコトアルヘク又ハ時宜ニ依リ必要ノ場合ニ於テ金錢ヲ交付スルコトアルヘシ

中央管理

第九條 支社ハ中央管理部ノ主管ニ屬ス中央管理部ハ一府縣内ノ會社ヲ總轄シ各支社ノ全般ニ關スル事項ヲ處理ス又管理部ニ於テハ現在基本金寄附金及ヒ其他ノ收入金ヲ以テ中央金庫ヲ組織ス  
支社ハ年報ヲ作り毎年一月之ヲ中央管理部ニ呈出スヘシ中央管理部ニ於テハ每年之ヲ編纂スヘキモノトス

第二節 救貧及ヒ教育事業

犯罪ノ原因ハ多クハ貧困ト放縱ノ二點ニ歸ス貧困ハ救貧組織ニ依リテ幾分か

○生徒募集廣告

本校ハ奉學年(九月)ヨリ更ニ講師ヲ増聘シ最新ノ學理ニ基キ懇切熱心ニ法律學ヲ教授ス  
入學志望者ハ速ニ申込マルヘシ

入學試験

甲種(普通入學試験)

九月九日 午前八時執行

乙種(徵兵令ニ依リ徵集猶豫ノノ特典アル入學試験) 九月一日 午前八時執行

編入試験

九月二十日

午前八時執行但第二年級ヘノ編入試験ニ限ル

入學志望者ヘ右試験前日

マテニ願書及ヒ履歷書ヲ差出スヘシ

授業開始

九月十一日各級共授業開始

規則入用

ノ向ハ郵券貳錢ヲ送ルヘシ

明治三十三年八月

司法部指定  
文部省認可

私立

和佛法律學校

校外生規則摘要

- 一 講義録ハ各部毎月二回發行シ滿一今年ヲ以テ卒業トス
- 一 一今年ヲ以テ完了セザルトキハ號外ヲ發ス
- 一 講義録ハ之ヲ三部ニ分ツ其發行定日左ノ如シ
  - 第一部 毎月 五日 二十日
  - 第二部 毎月 十日 廿五日
  - 第三部 毎月 十五日 三十日
- 一 月謝金ハ全部費圓、各一部四十錢トス但シ入學金ヲ要セズ
- 一 校外生ハ本校講談會、討論會ニ出席傍聽スルコト及ヒ本校ノ出版ニ係ル書籍雜誌ハ特別ノ廉價ヲ以テ購求スルコトヲ得
- 一 校外生全部卒業證書ヲ有スル者ハ試験ノ上校內生三年級ニ編入セラルルコトヲ得
- 一 校外生ハ講義録中ノ疑義ニ付キ質問スルコトヲ得問題ハ一問毎ニ別紙ニ認メ且一問毎ニ返信用郵券ヲ封入スルコトヲ要ス
- 一 三個月以上月謝不納ノ者ハ退學者ト看做ス
- 一 月謝ハ東京飯田町郵便支局拂和佛法律學校會計係宛トスヘシ

明治廿二年十二月九日 內務省許可

明治三十三年八月十一日印刷  
明治三十三年八月十五日發行

東京市四谷區四谷中町三丁目六番地

編輯者 小田 幹 治郎

東京市芝區四ノ久保明倉町十一番地

印刷者 金子 鐵 五郎

東京市芝區四ノ久保明倉町十一番地

印刷所 金子 活 版 所

東京市總町區富士見町六丁目十六番地

發行所 司法省 和佛法律學校

指定

(電話番町百七十四番)